

●教養教育

看護の基礎

浅野 妙子、金城 やす子、五十里 明、石田 路子
菅沼 信彦、平賀 元美、野々川 陽子、大西 幸恵
大原 まゆみ、小栗 直子、穴井 美恵、神谷 智子
佐久間 清美、鈴木 岸子、八田 早恵子
清水 嘉子、小幡 さつき、鈴木 孝

2 単位 1年次前期 複数・クラス分け

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）>

〔テーマ〕

大学生活とはどのようなものか、また看護学を専攻するとはどのようなことか、名古屋学芸大学の人材の養成に関する目的や、教育上の目的を活用した学びと豊かな大学生活のための自主的・持続的な学習の進め方について、基本的な知識を確認しながら展開する。個人ワーク、グループワークを重視し、大学で学ぶことの意味とこれからの大学生生活の学習基盤を整える。看護を専攻するうえでの心構えについて学びを深める。

〔到達目標〕

1. 大学での学修を進めるうえで必要な、レポート作成、論文作成、表現力の習得に向けて”読む”、”書く”、”表現”する力を身につける。
2. 図書館を活用して、文献、資料を収集し、必要な情報を収集、クリティクし、論理的、客観的な思考力と視野を広げる。
3. 看護学部カリキュラムの特徴 実習について理解し、看護学生としての学びにつなげる。
4. 大学生生活の送り方、学生としての姿勢や態度、素養を身につける。

<授業の概要>

看護を志すために、入学に際し勉学や生活に必要な基本的知識や態度を修得し、これからの大学生生活の学習基盤を整える。「調べる」「書く」「話す」「聴く」など自発的・能動的な学習の進め方を学ぶ。また看護師としての礼節やマナー、言葉遣いの基本や臨床で対象との良好な人間関係を形成していくために必要な「チーム医療としての職場の関係作り」の基礎、「自己開示」のための基礎的方法を学ぶ。

<学生に対する評価の方法>

アクティブラーニングを活用して、グループワークにおける参画度（20%）、提出を義務づけるリアクションペーパー（50%）及び課題レポート（30%）により総合的に判断する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 ガイダンス 名古屋学芸大学の紹介 自己紹介
- 第02回 学修力を高めるために - 図書館の利用 -
- 第03回 学修力を高めるために - 文献・資料の収集方法、検索の仕方 -
- 第04回 学修力を高めるために - 身近な生活や健康をテーマにした資料や文献を集める -
- 第05回 学修力を高めるために - 選んだ文献・資料を正しく解釈して読む -
- 第06回 学修力を高めるために - 要約を作成する -
- 第07回 学修力を高めるために - 自分の感想や考えを書く -
- 第08回 学修力を高めるために - 自分の思いや意見、考えをグループメンバーに伝える、聴く、討議する -
- 第09回 レポートの書き方について まとめ
- 第10回 学生生活を有意義にするために - メール・手紙・約束の取り方 -
- 第11回 学生生活を有意義にするために - メール・手紙・約束の取り方 -
- 第12回 看護学部の紹介 カリキュラム・演習・実習について
- 第13回 看護学生としての学びについて
- 第14回 看護学生としての学びについて
- 第15回 発表とまとめ

<使用教科書>

毎回、配布する資料

河野哲也著『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

受講前後に図書館を利用して、自ら興味のある文献や資料を収集してください。文献や資料の内容は受講前に必ず読んで正しく理解したうえで授業に臨んでください。できる限り多くの文献や資料に触れて、一つのテーマであっても多方面からの知見や意見があることを理解してください。お互いの意見を聴いたうえで、自らの考えや方向性をじっくり考えるための時間を取ってください。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する（週 90 分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週 90 分）。まず、身近な生活や健康に関する興味あるテーマをさがして、それに関する文献や資料を読んでいきます。複数の資料や文献に触れて自らの知識や考えを蓄えていきます。つねに相手の意見や考えを尊重しながら、多くの情報から、客観的な判断力や論理的な思考力が高まることをねらいとしています。

看護学部では多くのカリキュラムが用意されています。人の命をあずかるという神聖な課題を念頭に学習を進めていきます。大学生といっても決して余裕のある大学生活ではないことも申し添えます。

英語コミュニケーションA

浅野 輝子、立花 みどり

1 単位 1年次前期 クラス分け

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）>

〔テーマ〕

1. バランスのとれた英語の4技能を伸ばす。
2. 外国の医療システムの理解を深める。
3. 医療知識を深める。

〔到達目標〕

真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。

<授業の概要>

在住外国人や増加する外国人観光客のための医療に対する言語支援の必要性とその充実化が認識されるようになってきた。特に外国人が入院した場合には、英語が話せる医師だけの対応では十分でなく、24時間患者のサポートをする看護師が英語で患者に対応できることが求められる。また、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、看護師、看護学生がグローバルな医療現場で活躍するために必要な英語力も身につける。本授業では外国人患者とコミュニケーションが取れるようになるための英語の4技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）をバランスよく習得し、かつ基礎的な医学用語を学ぶ。特に、海外での職種名称、入院患者に対する病室案内の場面、さまざまな症状表現など医療文化も含めたその国の医療システムを正しく理解することを通して、幅広い医療知識を身につけることを目指す。

<学生に対する評価の方法>

授業参加態度 40%、単語・表現テスト 20%、パフォーマンステスト 40%

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 Unit 1. Please speak more slowly 英会話 導入
- 第03回 Unit 2. Where are you from? 基本的な質疑応答
- 第04回 Unit 3. Could you tell me your address please? 数字等の聞き取り
- 第05回 Unit 4. What department do you want to visit? 診療科の名称 1
- 第06回 Unit 5. Where is the X-ray department? 道順の説明
- 第07回 Unit 6. What are your symptoms? 症状の表し方
- 第08回 Unit 7. Where does it hurt? 痛みの種類/身体部位の名称
- 第09回 Unit 8. Have you ever had any serious illnesses? 完了形の使い方
- 第10回 Unit 9. Take one tablet, four times a day.

	期間などの表現
第11回	Unit 10. Let me make an appointment for your test. スケジュールの表現
第12回	Unit 11. Your surgery will be tomorrow at a.m. 手術等の説明
第13回	Unit 12. How are feeling today? 入院患者とのよくある会話
第14回	総復習・表現 単語
第15回	総復習 パフォーマンス テスト (ペア)

<使用教科書>

『クリスティーンのやさしい看護英会話』医学書院

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

基本的な医療の現場での英会話だが独特な表現もあるので、医療単語、会話文等予習をしっかりとすること。(週 90 分) 毎回必ず英単語のミニテストがあるのでしっかりと医療英単語等を覚え、復習すること。(週 90 分)

医学用語は日本語でも難しいのでまず日本語で意味を理解したうえで、英単語や表現を覚える。

第09回	U8. メタボリック、定期検査の会話、検査について発表
第10回	U9. 貧血についての会話、検査
第11回	U10. 外傷、外科での会話 ③諸外国での医療事情(その他)
第12回	U11. 手術
第13回	U12. アルコール中毒 テスト準備
第14回	U13. 超音波検査
第15回	病院での会話、ロールプレイパフォーマンステスト (ペア) 全員

<使用教科書>

“Medical English Clinic” センゲージラーニング

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

前期と比べるとより専門的な会話の内容になっているので予習は必ずすること。

また reading activity のトピックの内容に関する日本語での知識、また英単語等も前もって調べておくこと。(週 90 分)。授業で覚えた内容をすべて復習しておくこと (週 90 分)。

英語は経験値が高いと会話能力も高まるので、習った会話、英単語等は繰り返し音読などで復習し覚えると良い。

英語コミュニケーションB

浅野 輝子、立花 みどり

1 単位	1年次後期	クラス分け
------	-------	-------

哲学へのいざない

稲垣 恵一

2 単位	1年次前期	単独
------	-------	----

日進キャンパス

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

在住外国人や増加する外国人観光客のための医療に対する言語支援の必要性とその充実化が認識されるようになってきた。特に外国人が入院した場合には、英語が話せる医師だけの対応では十分でなく、24時間患者のサポートをする看護師が英語で患者に対応できることが求められる。また、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、看護師、看護学生が英語が共通語となっている海外で活躍するために必要な英語力も身につける。

〔到達目標〕

1. 看護師に求められる英語コミュニケーション能力について理解ができる。
2. 外来の臨床経験に役立つ医療英語の必要が理解ができる。
3. わが国の国際化と国際社会への医療看護を通じての貢献について理解ができる。

<授業の概要>

英語コミュニケーションAを踏まえて、国内での看護師として病棟、外来の臨床経験に役立つ医療英語のみならず、英語が共通語となっている海外で活躍するために必要な英語力も身につける。この授業では外国人の患者とコミュニケーションが取れるようになるための英語の4技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）をバランスよく習得し、かつ専門的な医学用語を学ぶ。特に、海外での社会的背景を聴取する場面、医療保険について尋ねる場面、診療申込書を記入するときのロールプレイを通して、患者の文化的背景の看護について学ぶ。

<学生に対する評価の方法>

授業参加態度 40%、単語・表現テスト 20%、パフォーマンステスト 40%

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

第01回	オリエンテーション
第02回	U1. 看護師との問診の会話
第03回	U2. 検査 血圧体温測定等 ①諸外国の医療事情 (アジア)
第04回	U3. インフルエンザ等の症状の会話
第05回	U4. 痛みへの対処
第06回	U5. 胃痛を訴える会話
第07回	U6. 腹痛、食欲不振を訴える会話 ②諸外国の医療事情 (欧米)
第08回	U7. 血液検査、検査に関する用語

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

1. 現代を形作る学問や社会のあり方について理解すること。
2. ITをはじめとする情報や日常生活から、生き方や社会のあり方についての哲学的問題について見つけ、自分の考え方を育てるようになる。

<授業の概要>

哲学は、人生論や屁理屈、非現実的な空想と見なされがちであるが、本当は自己とそれを取り巻く他者・社会との関係を自分に軸足を置いて総体的かつ論理的に捉えていく知的営為である。本講義では、最先端科学技術（医療・環境）、経済社会の仕組み、情報化社会、男女共同参画を基本線とし、学生の皆さんが、(1)「現代を形作る学問や社会のあり方について理解すること」、(2)「ITをはじめとする情報や日常生活から、生き方や社会のあり方についての哲学的問題について見つけ、自分の考え方を育てるようになる」ことを目標としたい。

<学生に対する評価の方法>

- (1) リアクションシート (10%)
講義前後の感想および質問を書いてもらい、授業に積極的に参加しているかどうかを評価する。
- (2) 試験 (90%)
授業内容についてどの程度理解しているのか、テキストをどの程度適切に読んでいるのか、自分でどの程度考えたのか、について評価する。
- (3) (1)、(2)を総合して評価を出す。ただし、受講態度が悪かった場合には、1回の講義につき総合得点から7点減点する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

第01回	ガイダンス この授業の進め方や単位の取り方について説明する。
第02回	自然と人間 動物と人間がどう異なっているのか素朴に考える。
第03回	芸術と何か 古代の壁画を参考にしながら、芸術の意味について考える。
第04回	科学技術と人間 臓器移植を中心に身体と人間の尊厳について考える。
第05回	科学技術と労働 科学技術は本当に人を楽にしているのかどうかを検討する。
第06回	社会と自由 監視社会と自律について考える。
第07回	歴史と暴力 ユダヤ人がなぜ殺されねばならなかったのか、戦争の責任について考える。

- 第 08 回 意識とは何か 自分とは何か、について考える。
- 第 09 回 ジェンダーの哲学 1 ジェンダーの基礎概念について学ぶ。
- 第 10 回 ジェンダーの哲学 2 ジェンダーと労働がどのように関わっているのかについて学ぶ。
- 第 11 回 ジェンダーの哲学 3 セクシュアルハラスメントと DV の仕組みについて学ぶ。
- 第 12 回 ジェンダーの哲学 4 LGBT と権利の問題について検討する。
- 第 13 回 まとめと試験
- 第 14 回 哲学とは何か 哲学とはどのような営みなのかを考える。
- 第 15 回 試験の返却と解説

<使用教科書>

教科書は使用しない。毎回、プリントを配布する。

参考文献

- ・ミシェル・オンフレ『〈反〉哲学教科書—君はどこまでサルか?—』(NTT 出版)。
 - ・森下直貴、稲垣恵一他『生命と科学技術の倫理学—デジタル時代の身体・脳・心・社会—』(丸善出版)
- いずれも購入の必要はない。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

テキストやノートを熟読して、日常について考えてみる。哲学の新書本程度の簡単な入門書を読むと、哲学の知的営みがよく理解できるだろう。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週 90 分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週 90 分）。

心の科学

岩瀬 信夫

2 単位	1年次後期	単独
------	-------	----

日進キャンパス

<授業のテーマ及び到達目標（「イブ」の関連）>

[テーマ]

ヒトの心のはたらきを科学的にとらえ、人間を理解する際の新たな視点を得る。

[到達目標]

1. 行動の科学としての心理学の特徴を説明できる。
2. 客観的な情報に基づいて人間の行動を説明できる。
3. 科学的な視点をもって人間生活の問題と解決策を説明できる。

<授業の概要>

人間を科学する心理学の基本的な考え方や研究法を紹介する。本授業を通して、自らの心・身体・行動およびその基礎となる脳の働きについての知識を、体感を持って獲得することを目指す。ヒトはどのように外界を知覚し、どう記憶し、いかにして学習するのか。また、その行動を司る脳機能とはどのようなものなのか。本授業では、心理学の基本的な考え方について具体的な研究例を提示しながら紹介する。

<学生に対する評価の方法>

授業中に課すレポート（おもに講義の要約）と期末の試験の成績により評価する。評価の配分はおおよそ、レポート：期末の試験＝1：2 を考えているが、受講者の課題達成度により若干、変動することがありうる。授業に出席することは当然のことであるから、特別に出席点を加味することはない。また、この授業は再評価を実施しない。その点は十分留意すること。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第 01 回 導入：心理学は何を研究するのか
- 第 02 回 環境の認知 (1)：感覚・知覚
- 第 03 回 環境の認知 (2)：注意
- 第 04 回 学習 (1)：古典的条件づけ
- 第 05 回 学習 (2)：オペラント条件づけ
- 第 06 回 記憶 (1)：記憶のしくみ
- 第 07 回 記憶 (2)：記憶の変容と忘却
- 第 08 回 情動と動機づけ (1)：動機づけ

- 第 09 回 情動と動機づけ (2)：ストレス
- 第 10 回 対人関係・集団 (1)：対人認知
- 第 11 回 対人関係・集団 (2)：社会的影響
- 第 12 回 パーソナリティ (1)：個人差の理解
- 第 13 回 パーソナリティ (2)：自己認知
- 第 14 回 試験とまとめ
- 第 15 回 試験のフィードバックなど

<使用教科書>

指定教科書はなし。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

- ・シラバスを確認して、次回の授業のテーマについて予習する（30 分／週）。
- ・授業の内容や日常の経験をもとに自ら問いをたて、自分で調べる。授業時に関連する書籍を紹介するが、与えられたものだけでなく、図書館などを利用し、自ら興味のある書籍を選んで読む（60 分～／週）。

本や新聞を読んだり、映画を観たり、美術館や博物館などへ足を運んだりして興味の範囲を広げましょう。

人間と教育

大橋 保明

2 単位	1年次前期	単独
------	-------	----

<授業のテーマ及び到達目標（「イブ」の関連）>

[テーマ]

人類が蓄積してきた文化を後世に伝達することをめざす人間の社会的営みである教育について、教育学の基礎的な理論や実践を踏まえながら歴史的観点から捉え返し、看護実践においてマイクロ・マクロに応用可能であることを示す。

[到達目標]

1. 人間にとっての教育の意味を考え、その必要性を理解することができる。
2. 学校・家庭・地域における教育的な作用を理解し、看護実践への応用可能性を説明できる。
3. 医療現場で教育的に携わることへの関心・意欲・態度をもつことができる。

<授業の概要>

教育は、狭義には学校で教える学ぶことであり、広義には人間の成長全体を支える営みである。生物学上の〈ヒト〉として生まれ、いまだ人間としての特性をもたない存在に、道具や言語を使う〈ひと〉としての特性を獲得させ、人類が蓄積してきた文化を後世に伝達することをめざす人間の社会的な営みである教育について、教育学の基礎的な理論や実践を踏まえながら歴史的観点から捉え返し、看護実践にさまざまな形で応用できるようになることをめざす。

<学生に対する評価の方法>

質疑応答やグループワーク等における参画度 (20%)、提出を義務づけるワークシート (30%)、試験 (50%) により総合的に判断する。なお、「対話的・主体的で深い学び」の成果の観点を重視する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第 01 回 「教育学」の概要：なぜ、教育学を学ぶのか
- 第 02 回 教師教育学 (1)：教師という仕事／看護師という仕事
- 第 03 回 教師教育学 (2)：「教師集団」とは何か
- 第 04 回 教師教育学 (3)：現代教育改革と学校教員
- 第 05 回 日本教育史 (1)：「学校」とは何か／「病院」とは何か
- 第 06 回 日本教育史 (2)：学校の歴史と教育制度
- 第 07 回 教育課程論 (1)：「隠れたカリキュラム」とは何か
- 第 08 回 教育課程論 (2)：ジェンダーと教育
- 第 09 回 教育社会学 (1)：「不登校」とは何か
- 第 10 回 教育社会学 (2)：学校に通うことの意味
- 第 11 回 教育社会学 (3)：「サービス・ラーニング」とは何か
- 第 12 回 教育社会学 (4)：地域における教育実践／地域における

看護実践

- 第13回 災害と教育（1）：「トランス・サイエンス」とは何か
- 第14回 災害と教育（2）：原発災害と学校
- 第15回 試験および講義のまとめ

<使用教科書>

特に指定せず、毎回資料を配布する。参考図書等については、適宜紹介する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

上記テーマに沿って自らの被教育経験を振り返ったり、身近な地域における教育・学習活動の現状等に関心をもち、考えたことや調べたことを整理したうえで受講すること（予習90分/週）。また、授業で配布するワークシート等で自らの考えをまとめたり、他者の考え方や他地域の教育・学習活動との相違点や共通点等を整理し、考察を深めること（復習90分/週）。

人と人との営みとしての医療・看護、教育、福祉・保育等には、それぞれの特性とともに多くの共通点もある。子ども虐待や災害対応、インクルーシブ教育（特別支援教育）のあり方など、新聞やニュースなどのメディアを通じて発信される日々の情報に関心をもち、事象を多面的かつ批判的に捉える視点を養ってほしい。

日本の歴史		
今井 隆太		
2 単位	1年次後期	単独
日進キャンパス		

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・ポリシーとの関連）>

「外国人がみた日本」。近代日本に対して向けられた「まなざし」の歴史である。

1. 近現代の、われわれのごく近い祖先が生きていた日常生活世界を追体験すること。教養教育のディプロマ・ポリシーに見られる基本的な知識の再確認であり、異分野との協同を基調とする。
2. 分野は「人間の探求」「歴史と文学」「社会のしくみ」にハイブリッドに関連する。開国以来日本にやってきた外国人たちは、日本人が気づかない日本の良さを指摘してきた。なにげないからこそ気づかずに通り過ぎてきた祖先の暮らしを振り返り、自分たちの生き方を設計する材料としたい。

<授業の概要>

テーマは「外国人がみた日本」。近代日本に対して向けられた「まなざし」の歴史である。目標は近現代の、われわれのごく近い祖先が生きていた日常生活世界を追体験すること。教養教育のディプロマ・ポリシーに見られる基本的な知識の再確認であり、異分野との協同を基調とする。分野は「人間の探求」「歴史と文学」「社会のしくみ」にハイブリッドに関連する。開国以来日本にやってきた外国人たちは、日本が気づかない日本の良さを指摘してきた。なにげないからこそ気づかずに通り過ぎてきた祖先の暮らしを振り返り、自分たちの生き方を設計する材料としたい。

<学生に対する評価の方法>

毎回なんらかの質問に答えるかたちで、テキストを読み進んでいきたい。出席カードを通して応答することが評価の中心となる。最後に、おおきなテーマに沿って、ひとつのテキストに向かい合い、レポートを作成する。評価の割合としては、各回の応答カードが7割、期末レポートが3割である。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 外国人の見た近代日本
- 第02回 『日本はどこへ行くのか』を手がかりに
- 第03回 アーネスト・サトウと幕末の外交官たち
- 第04回 イザベラバードと旅行者たち
- 第05回 お雇い外国人・『ベルツの日記』
- 第06回 ラフカディオ・ハーン『日本の面影』とハーン批判
- 第07回 E・H・ノーマンとエドウィン・O・ライシャワー
- 第08回 W. E. グリフィス『ミカド』、ケネス・ルオフ『国民の天皇』

- 第09回 最後のサムライとしての乃木将軍
- 第10回 「ケーベル先生」と定住者の視点
- 第11回 テッサ・モーリス・スズキ『辺境から眺める』
- 第12回 日本の歴史学と海外の日本学
- 第13回 オイゲン・ヘリゲル『日本の弓術』と日本精神
- 第14回 歴史社会学の貢献
- 第15回 ナショナルヒストリーを超えて
(順序および進め方は、変えることがある。)

<使用教科書>

中村隆英著『明治大正史 上巻』東京大学出版会（前期は上巻の時代を扱い、後期は下巻分の見当。）
キャロル・グラックほか『日本はどこへ行くのか』講談社学術文庫 日本
の歴史25
「外国人がみた日本」に関するテキストはプリントを配布する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

資料とノートを基に、当日の復習（90分）、次回の授業の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。テキストやノートを熟読して、日常について考えてみる。毎講義後に教室で指示する。日本の歴史は世界の中で孤立してあるのではない。ことに近現代史ではそうである。高校で使用した日本史および世界史の教科書を読み直すことをお勧めする。日本の幕末あたりから、世界の動向を同時並行的に見ていくこと。そして、日々の新聞を読むこと。ここまでで予習は完了。復習に関しては教室で指示する。

医学の歴史		
福田 真人		
2 単位	1年次前期	単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・ポリシーとの関連）>

[テーマ]

1. 人間の歴史の中の疾病に対する医学、医療の役割の再認識
2. 病気に対する看護の役割の評価
3. 医療、看護の人間への貢献

[到達目標]

看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化できる。寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

<授業の概要>

人間の歴史とともに実践されてきた医療の歴史を学ぶ。医学史・看護学史を含んだ医療の歴史を学ぶことにより現在の保健・医療・福祉の成り立つ基盤を理解し、その将来も考える。看護学を学ぶ導入として医学の概念を学問的にとらえ、理解する確かな基盤とするための学習である。医学の歴史の変遷をたどりながら、医学とは何か、その中の看護とは何かを学ぶ。歴史は今をつくりあげている出来事であり、未来へつながる出来事である。今、医療分野・看護分野が直面している課題の根は歴史の中にあるともいえる。医学・看護学が人間や社会とどのように関わり形作られてきたのかその歴史を学び、時代・社会の変化に対応し変化し続ける医学・看護学のあり方について、看護の対象となる人々の生活の質を向上するための看護職者として自らの責務を考える機会とする。

<学生に対する評価の方法>

授業への参加態度(20%)、レポート(50%)、小論文試験 (30%)

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 イントロダクション：医学と医療、看護とは
- 第02回 古代、医学と看護の発生
- 第03回 ギリシャ、ローマ時代の医学と看護：ヒポクラテスと液体病理学説
- 第04回 中世の医学と看護：キリスト教とアラビアの世界
- 第05回 医学と看護の歴史（結核の歴史を通して）
- 第06回 ペストの歴史：死と埋葬
- 第07回 梅毒の歴史：性病（性感染症 STD）の拡がり
- 第08回 コレラの歴史：衛生学と看護

- 第09回 ナイチンゲールの登場：看護学の曙
- 第10回 医学理論の再検討（宇宙論、瘴気論、神罰論その他）
- 第11回 結核の治療と看護（サナトリウムまでの道）
- 第12回 結核と化学的治療の過程
- 第13回 結核の美化（文化的史的観点）
- 第14回 結核の美化（日本の展開の検討）
- 第15回 医学と看護とはいったいなんなのか：未来への指標

＜使用教科書＞

プリントを配布します。

＜自己学習（予習・復習等）の内容・時間＞

医学史概要を知る為の読書が推奨される。医学、医療、看護の歴史の経緯をたどる際に、その関連事項を予め学習しておく事は有意義であろう。医学の変遷史を知れば、それ自体で医学思想の大きな流れを把握できよう。すると今日の再先端医学に至る、長い道程が理解でき、医学、医療、看護が一夜にしてみたものでない事が理解できる。そして、今後もなお発展を続けていくものであるという事が認められよう。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週 90 分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週 90 分）。

学習のヒントは、実は日常にふんだんにあります。医学、医療、看護は遠くにあるようで身近です。日々の生活の中に、おもしろい種を色々発見して、それを学びの糧としてください。（参考図書：福田眞人『結核の文化史』名古屋大学出版会、福田眞人『結核という文化』中央公論社、福田眞人『北里柴三郎』思文閣出版、シゲリスト『文明と病気』（岩波書店）、立川昭二『病気の社会史』（NHK 出版）

英米の文学

鈴木 薫

2 単位	1年次後期	単独
日進キャンパス		

＜授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）＞

テーマ：英米文学の世界に触れることで、英語学習に必要な一般常識である英語圏の歴史や文化に関する知識を獲得する。

到達目標：

1. イギリスやアメリカの歴史・社会・文化を理解する。
 2. 作品鑑賞を通して異文化社会や人間関係について学ぶ。
 3. 英語という言語の理解を深め、文字と音声の関わりを知る。
 4. 英語音声の特徴を学ぶことによって、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。
- （「知識理解」◎、「意欲・態度」○）

＜授業の概要＞

英語力のさらなる向上を目指す学習者にとって、英語圏の文学作品の背景にある歴史・社会・文化について知ることは重要となる。これらについての知識が豊富であれば、異文化理解が容易となり、コミュニケーション能力も向上するからである。国際語としての地位を確立している英語の文化的な基礎知識を獲得することは、グローバルに活躍する社会人を目指す者にとって役立つものとなるであろう。詩のリズムを学ぶことは、英語のプロソディ（韻律学・作詞法）を学ぶことであり、英語音声の表現力を培うものとなる。

＜学生に対する評価の方法＞

- ①受講態度（10%）
 - ②英語圏の歴史と文学に関するテスト（45%）
 - ③米文学作品に関するレポート（15%）
 - ④英文学作品に関するレポート（15%）
 - ⑤英語の詩とプロソディに関するレポート（15%）
- を総合して評価する。
本授業は再評価を実施しない。

＜授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）＞

- 第01回 授業の目的・内容・日程・課題・レポート・テストなどについての説明
英国の歴史と古代英文学：ベウォルフ・アングロサクソン

年代記

- 第02回 英国の歴史と中世英文学：チョーサー
- 第03回 英国の歴史と近代英文学：シェークスピア
- 第04回 米文学の独立期・開花期・金ぴか時代と歴史的背景
- 第05回 近代と現代の米文学：失われた時代・第二次大戦後の文学
- 第06回 英語圏の歴史と文学に関するテスト
- 第07回 米文学作品の鑑賞：登場人物の人間像と心理的变化
- 第08回 米文学作品の鑑賞：全体的分析と発展的解釈の手法
- 第09回 英文学作品の鑑賞：ピグマリオンとマイ・フェア・レディ
- 第10回 英文学作品の鑑賞：マイ・フェア・レディと英語プロソディ
- 第11回 英語音声の変化とプロソディ
- 第12回 英語の詩の韻律
- 第13回 英語の詩とプロソディ（マザーグース）
- 第14回 英語の詩とプロソディ（ポピュラーソング・他）
- 第15回 作品鑑賞レポートの講評と発展的学習のすすめ

＜使用教科書＞

随時、プリントを配布

＜自己学習（予習・復習等）の内容・時間＞

毎回配布されるプリントを、年代ごとに整理しながら、復習ノートを作成し、歴史上の出来事が、言語や文学に与える影響に着目し、因果関係を把握する。（週 90 分）

授業で紹介する文学作品の日本語に翻訳したものを読んだり、映画化されたものを鑑賞したりすることで、作品について理解が深まる。（週 90 分）

法と社会

加藤 英明

2 単位	1年次前期	単独
日進キャンパス		

＜授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）＞

〔テーマ〕

社会生活において、法というものがきわめて重要な役割を果たしているにもかかわらず、高等学校までの学校教育で教えられることはあまりに少ない。ほぼ初心者といつてよい学生諸君に、法を一通り学んでいただくのが本講義である。また法の解説を通じて、社会知識、教養の涵養にもつとめる。すなわちテーマは、法の概説である。社会人として、最低限必要な法知識・法的思考法を得ることを目標とする。

〔到達目標〕

1. 国際語としての地位を確立している英語の文化的な基礎知識を獲得することは、グローバルに活躍する社会人を目指す者にとって役立つものとなり、高い意識を育成・旺盛な探究心を育てる。
2. 社会人としての基本的な知識の獲得と共に、異文化理解の促進を図り、コミュニケーション能力を向上させる。

＜授業の概要＞

憲法改正が現実的な議論となってきた。日本はボツダム宣言を受諾し、国家のあり方を憲法に示した。国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を3本柱とする憲法を基軸に社会と法の関わりを理解し、国民の権利を尊重するとは具体的にどのようなことか等、事例の整理を通して理解し、各自が自分の言葉で、①国民の権利義務、②平和維持について考えた上で、③国民主権、国づくりのあり方について、自分の考えをしっかりと他者に伝えることができるようにしたい。

＜学生に対する評価の方法＞

学期末に行う筆記試験の成績を基本とし（パーセンテージでいえば100%）、これに平常の受講態度などを加味して採点する。試験では、法というものの理解、「権利」など法に関する基本的概念の理解を主に問う。再評価は行わない。

＜授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）＞

- 第01回 教養とは何か 何のために教養科目を学ぶのか。
- 第02回 法のかたち 法とは、条文の形になったものだけではない。

様々な法の形を考える。

- 第03回 国家法と非国家法 法とは、国家の法だけではない。国家以外の法にはどんなものがあるだろうか。
- 第04回 法と道徳 法と道徳は、同じものか、違うのか、考えてみよう。
- 第05回 法と道徳 法と道徳は、異なるものとすればどこが異なるのか、考えてみよう。
- 第06回 法のちから 法は、何のために存在するのか。法の存在意義に関わる問題である。
- 第07回 法による制裁 前回に引き続き、法のちからについて学ぶ。
- 第08回 刑罰について 刑罰はいかなるものか。その種類と役割を紹介する。
- 第09回 裁判とはいかなるものか 裁判は、どんな役割を担っているのか。その意味を考える。
- 第10回 司法の制度 司法制度を、具体的に理解しよう。
- 第11回 民法とはいかなる法か 近代社会における民法の意味を考える。
- 第12回 損害賠償の法 民法における損害賠償の理論と、その役割を学ぶ。
- 第13回 財産所有の法 近代社会における所有権の意義を考え、その他の財産権についても通観する。
- 第14回 契約の法 我々は、気付いていないが毎日契約を結び、それを履行して生活している。その意味と法理を考察する。
- 第15回 法と社会のまとめ (発展的課題の紹介含む)

＜使用教科書＞

教科書というわけではないが、『六法』は必携(すでに六法をもっている者はどの出版社のものでも可)。

＜自己学習(予習・復習等)の内容・時間＞

資料とノートを基に、当日の復習(90分)、次回の授業の内容を事前に予習(90分)し、講義に臨むこと。講義内容理解のための復習・予習は勿論として、日頃、新聞・テレビなどのニュースに触れ、自分なりの感想、意見をもつようにつとめることが、社会教養を深める結局的早道である。法や裁判に関する読書、映画・ドラマの鑑賞も大いに薦める。それらの書名、題名については、講義中随時提示する。

社会と福祉

石田 路子

2 単位 1年次後期 単独

＜授業のテーマ及び到達目標(ディプロマ・リソとの関連)＞

[テーマ]

現代社会における福祉分野の課題について、その原因や背景を知るとともに医療分野とのかかわりを正しく理解する。そのうえで、看護専門職としての役割や機能を認識し、どのように実践していくかを考察する。

[到達目標]

1. 福祉サービスの対象となる人々の状況を理解し、看護専門職としてのアプローチ方法を考察する。
2. 福祉分野と医療分野の連携を視座にいたれた複合的な学びの力を養成する。
3. グローバル社会を対象とした幅広い福祉課題に取り組み、国際協力への積極性を身につける。

＜授業の概要＞

現代社会の福祉分野に関わる様々な課題について、その原因や背景を正しく理解して問題点を抽出する力を身につける。また、医療分野とのかかわりについて、各分野の専門職連携を視野に入れながら実践的に理解し、看護専門職としての役割や機能を確認する。さらに、グローバル社会を見据えた福祉課題に着目し、看護専門職に求められる社会的な役割についても考察する。

＜学生に対する評価の方法＞

アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(15%)、

提出を義務づけるリアクションペーパー(15%)及びミニットペーパー(10%)、期末の試験(60%)により総合的に判断する。

＜授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)＞

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 現代社会と福祉
- 第03回 高齢者福祉①高齢者福祉サービス
- 第04回 高齢者福祉②医療と介護
- 第05回 障がい者福祉①障がい者福祉サービス
- 第06回 障がい者福祉②障がい者医療
- 第07回 児童福祉①児童福祉サービス
- 第08回 児童福祉②小児医療ほか
- 第09回 生活困窮者①医療扶助
- 第10回 生活困窮者②公費医療制度ほか
- 第11回 地域包括ケアシステム①介護予防・生活支援
- 第12回 地域包括ケアシステム②医療・介護連携
- 第13回 外国人ケアスタッフについて①看護職
- 第14回 外国人ケアスタッフについて②介護職
- 第15回 試験とまとめ

＜使用教科書＞

毎回、配布される資料およびワークシート
参考図書：杉本敏夫 立花直樹 「社会福祉概論」 ミネルヴァ書房

＜自己学習(予習・復習等)の内容・時間＞

現代社会における福祉課題について、各自で授業前にどのような問題があり、その原因や背景について事前に調べ、講義において質問や確認したいことを準備しておく(週90分)。また、講義後には配布された資料や、自ら記入して作成したワークシートに基づき、新たな気づきや問題解決に結びつくような発見等があれば、それらのことについてコメントを付しながらノート等にまとめ、逐次、提出を求められるリアクションペーパー等に反映させる(週90分)。

看護専門職として医療はもとより福祉分野との関連を視野に入れた幅広い観点から問題解決の視点を身につけてほしい。参考図書として、『新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度 社会福祉』編著/山崎泰彦(神奈川県立保健福祉大学名誉教授)、鈴木真理子(社会福祉法人奉優会理事) B5判/236頁/定価2,160円(本体2,000円+税8%)。なお、疑問をもった点、関心をもった点については、各自で調べる習慣を身につけてほしい。

世界の動き

加藤 英明

2 単位 1年次前期 単独

日進キャンパス

＜授業のテーマ及び到達目標(ディプロマ・リソとの関連)＞

[テーマ]

現代の社会生活において、国際的な知識、発想を有することは大きな財産といえよう。本講義は、日々最新の国際事情を解説して、受講者の理解に供するのみならず、それらのよって来たる歴史的淵源を考察することで、将来を展望する。すなわち学問としての「国際社会の動き」を、つとめて平易に講ずるものである。

[到達目標]

1. ニュースに距離感なく接し、つねに世界地図を頭に浮かべられる国際志向を身につける。
2. 社会人としての最新の国際事情に関わる基本的な知識を獲得することにより、異文化の理解促進を図る。
3. 新聞が苦勞なく読めることを目標とする。

＜授業の概要＞

現代の社会生活において、国際的な知識、発想を有することは大きな財産といえよう。本講義は、日々最新の国際事情を解説して、受講者の理解に供するのみならず、それらのよって来たる歴史的淵源を考察することで、将来を展望する。すなわち学問としての「国際社会の動き」を、つとめて平易に講ずるものである。ニュースに距離感なく接し、常に世界地図を頭に浮かべられる国際志向を身につける。現代の社会生活において、国際的な知識、発想を有することは大きな財産と

いえよう。本講義は、日々最新の国際情勢を解説して、受講者の理解に供するのみならず、それらによって来る歴史的淵源を考察することで、将来を展望する。

<学生に対する評価の方法>

学期末に行う筆記試験の成績を基本とし（パーセンテージでいえば100%）、これに平常の受講態度などを加味して採点する。試験では、国際社会の動きへの関心度、基本的概念の理解度を主に問う。再評価は行わない。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 教養とは何か 何のために教養科目を学ぶのか。
- 第02回 国際社会とは 「国際社会」とは、単なる「世界」という意味ではない。その違いを学ぶ。
- 第03回 アジアの国々 アジア諸国を、地理的、文化的に分類する。
- 第04回 ヨーロッパの国々と諸民族 ヨーロッパ諸国を、歴史的、民族的、文化的に分類する。
- 第05回 地理と歴史の重要性／第03回の学習を踏まえ、国際事情における地理と歴史の重要性を理解する。
- 第06回 地理と歴史の重要性／第04回の学習を踏まえ、国際事情における地理と歴史の重要性を理解する。
- 第07回 民族とは何か 民族問題は現今の国際社会が抱える大きな課題である。民族とは何かを考える。
- 第08回 言語と世界 インド・ヨーロッパ語を中心に、言語と国家の関係を考える。
- 第09回 宗教と世界 国際社会が抱えるもう一つの課題 宗教についてユダヤ教、キリスト教を中心に考える。
- 第10回 宗教と世界 国際社会が抱えるもう一つの課題 イスラムを考える。
- 第11回 国家と世界 第07～第10回の学習を踏まえ、今日の世界における国家の諸問題をとりあげる。
- 第12回 アメリカと世界 第2次大戦後「世界の警察官」として君臨してきたアメリカは、トランプ政権ではどうか。現状を考察する。
- 第13回 中華人民共和国と世界 国際社会の重要なプレイヤーとなった中華人民共和国について、その歴史から導かれる思考・行動性向を学ぶ。
- 第14回 日本と世界 講義のまとめとして、世界における日本を考える。
- 第15回 世界の動きのまとめ（発展的課題の紹介を含む）

<使用教科書>

『今がわかる時代がわかる世界地図』2018年版 成美堂出版
『世界史年表・地図』吉川弘文館

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

講義を理解するための復習・予習は勿論として、日頃、新聞・テレビなどの国際情報に触れ、地図や年表で確認する習慣を身につけること。そうすれば国際的素養は短期間で飛躍的に向上するであろう。（週90分）。また、講義後には配布された資料や、自ら記入して作成したワークシートに基づき、新たな気づきや問題解決に結びつくような発見等があれば、それらのことについてコメントを付しながらノート等にまとめる（週90分）。
テレビやラジオ、新聞等のメディア情報の収集並びにテーマを絞って時系列で比較検討する習慣をつけることによって、どのように世界の課題が展開を遂げるか、注意深く観察してほしい。同一内容の事件や事故であっても、各社の視点があり、またそれが特徴となって表現されているからであり、これに基づき、自分なりの見識を形成するように心がけてほしい。なお、疑問をもった点、関心をもった点については、各自で調べる習慣を身につけてほしい。

生命の科学

日暮 陽子

2 単位 1年次後期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）>

[テーマ]

生体のしくみを理解する。

[到達目標]

確かな知識を習得していく基盤として生体について理解を深めておく必要がある。

本講義では、生体の構成成分や生体内で起っている細胞レベルの現象についての知識を習得する。

- ・生体を構成している成分について理解する。
- ・細胞内で起っている現象を理解する。

<授業の概要>

細胞の構造・機能、細胞間の情報伝達を理解した上で、生体内で起っている現象について講義をしていきます。生体の基本を学ぶことで、生体のしくみ（目で見ることができない現象）を考える基盤を作っていきます。

<学生に対する評価の方法>

試験・受講態度を総合的に評価する。評価は以下の配分で行う。

①受講態度（10点）

②試験点：中間の試験（40点）・試験（50点）

※科目の性質上アクティブラーニングはなじまない

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 生命科学とは
- 第02回 タンパク質の構造と働き
- 第03回 脂質の構造と働き
- 第04回 糖質の構造と働き
- 第05回 細胞の構造と機能
- 第06回 生命の設計図1（DNAについて）
- 第07回 生命の設計図2（タンパク質の合成）
- 第08回 中間の試験とまとめ
- 第09回 細胞内外の情報伝達
- 第10回 エネルギー産生
- 第11回 食と健康
- 第12回 消化・吸収
- 第13回 記憶
- 第14回 免疫システム
- 第15回 試験とまとめ

<使用教科書>

吉村成弘著『身近な生物学』（羊土社、2015）

【参考図書】生命科学 改訂第3版（東京大学生命科学教科書編集委員会編、羊土社、2015）

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

シラバスに示す次回講義で扱う話題について予習する（90分）。講義を振り返り、教科書やノートを見直し、生じた疑問点などについて、自ら調べ、まとめる（90分）。

講義の内容を振り返り、教科書やノートを見直してみてください。

性差の科学

菅沼 信彦

2 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）>

[テーマ]

ヒトにおける「性」の成り立ちを理解することは、「人」を理解することにつながる。性成熟の結果としての生殖機構の完成は、種の保存と

いう生物にとって最も重要な命題を成し遂げるための機構であり、その学習は、母性看護学のみならず看護全般に必要である。また、性分化障害、性機能障害は性差を考えるキーポイントとなる。

〔到達目標〕

1. ヒトならびに人の性差を理解する。
2. ヒトの生殖機構を学習する。
3. 性差に関わる各種疾患を知る。

<授業の概要>

看護学を学び、看護を実践する上で、「性差」を理解することは重要な事項である。生物学的な「ヒト」においては、染色体に始まり、卵巣・精巣への分化、女性ホルモンならびに男子ホルモンの分泌、生殖器ならびに外性器発生を経て、有性生殖可能な身体に発育していく。その結果として男女の各々の身体機能が確立し、種の継承に必要な生殖機能が完成する。さらに人間の場合には、「人」としての性成熟へと導かれる。ヒト脳の前頭葉の巨大化は、他の動物種とは異なり「性=生殖」の図式を崩すこととなる。本講義においては、性決定機構ならびにその異常としての性分化疾患の診断・治療を医学的に解説し、将来の看護師としての理解を促す。また性指向ならびに性嗜好とその社会的意味についても述べる。さらに「性差科学」の研究手法と成果、ならびに臨床診療におけるセックス・カウンセリングやセックス・セラピーを紹介する。

<学生に対する評価の方法>

試験

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 オリエンテーション：「ヒト」ならび「人」における「性」とは
- 第02回 Sex, Gender, Sexuality の違い
- 第03回 生物学的な性の決定機構
- 第04回 ヒトの性成熟
- 第05回 ヒトの生殖機構
- 第06回 性分化障害：インターセックスの診断
- 第07回 性分化障害：インターセックスの治療
- 第08回 セクシュアル・マイノリティ：LGBT
- 第09回 性のバリエーション：パラフィリア
- 第10回 「男」の心、「女」の心
- 第11回 世界の性風習（水谷哲也：東海病院医師）
- 第12回 女性性機能障害（大川玲子：日本性科学会理事長）
- 第13回 男性性機能障害（永井敦：川崎医科大学泌尿器科教授）
- 第14回 「性」と「生殖」を科学する
- 第15回 セックス・カウンセリングとセックス・セラピー

<使用教科書>

無し。各回に資料を配付する。
参考書としては母性看護学教科書。「セックス・セラピー入門」（金原書店）

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

1年次の前期においてこれらの項目を予習することは困難であるため、復習を主とする。講義において学習した事項に関し、学問的興味をもって関連図書を参照すること。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。

人間と地球環境

大矢 芳彦

2 単位 1年次後期 単独

日進キャンパス

<授業のテーマ及び到達目標（7イ7ホ7リ7との関連）>

〔テーマ〕

私たちが生活している場であり、なくてはならない「地球」というものをしっかり理解し、現在地球上で起こっている人間生活と地球環境との摩擦の原因を考え、今後私たちが地球と仲良く共存していくためには何をしていけばよいかを把握する。

〔到達目標〕

1. 私たちが生を営んでいる地球とその環境を様々な視点から理解する。
2. 現在の環境問題の現状と私たちが何をしてきたかを把握する。
3. これらのことを認識した上で、今後私たちがどのような生活をすべきか考察する。

<授業の概要>

我々人間は、「火」というエネルギー源を活用することで、食物の殺菌、栄養摂取の増加、土器の製作、夜の活動を可能とするなどとして、文明を発展させてきた。人間の諸活動の中には、焼畑のような環境破壊があったものの、環境の再生能力の中にある程度留まっていた。しかし、産業革命以降、人類の爆発的なエネルギー消費の増大により、いろいろな環境問題が生じている。本講義では、我々人間の住む地球の環境問題を、種々の観点、特にエネルギーの観点から理解する。そして、「人間が地球上で永続的に生活できるためには、我々が今後何をすべきか」を考え、行動するための知識の枠組みを取得する。

<学生に対する評価の方法>

ペアワークやグループワークにおけるアクティブラーニング時の授業への参加および学習状況(20%)、レポート課題(20%)、筆記試験(60%)から総合的に判断する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 ガイダンス（授業のテーマについての概説と環境に関するアンケート調査）
- 第02回 地球を知る1（宇宙の中における地球環境の位置づけ）
- 第03回 地球を知る2（他の惑星と比較して地球環境の特殊性）
- 第04回 地球を知る3（水惑星としての地球の特徴）
- 第05回 地球を知る4（46億年間の地球環境の変遷からみる現在の環境問題の位置づけ）
- 第06回 現在の環境問題1（現在の地球環境問題の素因）
- 第07回 現在の環境問題2（世界の人口問題と日本の人口問題の相違）
- 第08回 現在の環境問題3（循環型社会の重要性と私たちができること）
- 第09回 現在の環境問題4（地球温暖化の原因と私たちの生活への影響）
- 第10回 現在の環境問題5（生物種減少の原因と私たちの生活への影響）
- 第11回 エネルギー問題1（人類のエネルギー消費の歴史）
- 第12回 エネルギー問題2（現在のエネルギー消費の問題点）
- 第13回 エネルギー問題3（現在のエネルギー源の問題点と危険性）
- 第14回 エネルギー問題4（私たちはエネルギーとどのように向き合うべきか）
- 第15回 まとめ

<使用教科書>

大矢芳彦著『地球とともに』 荘人社
必要な場合は別途プリントを配布

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について、教科書を読んでおくことはもちろん、わからない単語などは、予め調べておくことと授業内容が良く理解できる（週90分）。また、授業時に生じた疑問点等について自分で調べてみると、その知識が身につく（週90分）。テレビや新聞、インターネットなどで環境やエネルギーの話題が報道されたときに、授業で学んだ事柄を思い出し考えることができれば、これが最も効果的な復習であり、この授業の目標が達成されたことにもなる。宇宙、地球、生命、人類、環境、エネルギーについては、生涯を通して学習していくことがふさわしい事柄であると思う。

音楽の世界		
		愛澤 伯友
2 単位	1年次前期	単独
日進キャンパス		

<授業のテーマ及び到達目標 (ディプロマ・リソとの関連) >

1. 「音楽とは何か」、「芸術とは何か」、「創作とは何か」を理解し、各自の領域において探求する
2. 西洋音楽と邦楽の違いを理解し、日本における「芸術」の意義を考察する
3. 教養としての「音楽」との接し方を学び、教養を深める

<授業の概要>

- ・「音楽とは何か」「芸術とは何か」「創作とは何か」を理解し、各自の領域において探求する基礎教養になる
- ・西洋音楽と邦楽の違いを理解し、日本における「芸術」の意義を考察する
- ・教養としての「音楽」との接し方を学び、教養を深める
- ・音楽を通じて「西洋」とは何かを考察する

これらを到達目標に、「音楽」について、歴史、地理、文化、社会、宗教、民族、風俗、言語などのさまざまな角度からアプローチし、音楽の多様性の理解と同時に、本来のリベラルアーツとしての教養を高めます。授業は毎回のテーマを中心に、講義、音、映像など、さまざまなサンプルから深く考察していきます。

<学生に対する評価の方法>

「授業ごとの参加度」(30%) - 毎回の出席票のコメントにて確認
「期末レポート」(70%) - 講義で習得した「芸術」「音楽」「教養」について、与えられた課題で各自が理解し、論述できるか。

<授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等) >

- 第01回 「音楽」とは何か? - オリエントーション、音楽とは何か、西洋音楽と邦楽
- 第02回 日本の音楽 (1) - 邦楽は西洋音楽だった (奈良時代、音楽の伝来、邦楽)
- 第03回 日本の音楽 (2) - 舶来品の西洋音楽 (明治時代、西洋音楽と邦楽)
- 第04回 テキストと音楽 (1) - 歌い方には4通りもある (テキストと音楽との関係、西洋詩学)
- 第05回 テキストと音楽 (2) - 和風ラップに至る道 (日本語と音楽の関係、東遊歌、能楽、J-pop)
- 第06回 宗教と音楽 - 感動『戦場のピアニスト』を正しく鑑賞するために (宗教、民族と音楽)
- 第07回 ポピュラー音楽 - Mozartの時代にもポピュラー音楽はあった (大衆芸能と芸術の差異)
- 第08回 日本音楽の受容 - エッフェル塔と三味線 (パリ万博、異国趣味、印象派の音楽)
- 第09回 音律 - ドレミは対数? (音響学基礎、音律、世界の音階)
- 第10回 『第9』とは - なぜ『第9』は年末恒例? (戦後西洋音楽受容史、西洋音楽の衰退)
- 第11回 著作権 - 自分の曲でも使用料払うの!? (音楽における国内、海外の著作権法の概説)
- 第12回 オペラ - 愛の結末は・・・ (古典派オペラ、イタリア・オペラ、楽劇)
- 第13回 電子音楽 - 電子立国ニッポンはすごい (発振の原理、電子音楽史、日本の技術とアーティスト)
- 第14回 民族音楽 - 音楽は世界「非」共通言語 (民族音楽とその関連、民族音楽からの享受)
- 第15回 現代の音楽 - 音楽、なう! (20世紀後半からの音楽と思想、音楽と社会、音楽と量子力学?)

※内容は、同時代的な出来事を取り扱うため、変更や順番の入れ替えがあります。

<使用教科書>

指定なし。毎回の授業で資料を配布する。参考資料などについては授業内で紹介する。

<自己学習 (予習・復習等) の内容・時間>

授業で取り上げたテーマに関する楽曲や作品を鑑賞すること。また、作者、時代背景など、関連した項目についても幅広く調べること。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する (週 90 分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる (週 90 分)。
できれば、実際に演奏会、公演に行くこと。こうした小さな鑑賞体験の積み重ねで芸術やリベラルアートな教養は高まります。

映画の世界		
		柿沼 岳志
2 単位	1年次後期	単独

<授業のテーマ及び到達目標 (ディプロマ・リソとの関連) >

映像表現の基本のひとつである映画の歴史を体系的に学ぶことにより、映画史の見取り図を各自が頭の中に描くことができるようになると同時に現在に直結する生きた映画史となることを目標とする。

<授業の概要>

映像表現の基本のひとつである映画の歴史を体系的に学ぶ。大まかな映画史の見取り図を各自が頭の中に描くことができるようになることと同時に単なる歴史の講義ではなく現在に直結する生きた映画史となることを目標とする。歴史的な社会状況を適宜参照しながら、抜粋上映と講義を中心に行う。

<学生に対する評価の方法>

レポートによる評価

<授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等) >

- 第01回 1890-1910年代: 映画の誕生～古典的映画の確立
- 第02回 1920年代 (1): モンタージュ理論
- 第03回 1920年代 (2): 詩的リアリズム/表現主義
- 第04回 1930年代: トーキーの到来/ハイブコード
- 第05回 1940年代 (1): ハリウッドの黄金時代/亡命者たちのハリウッド
- 第06回 1940年代 (2): ネオリアリズム/ヌーヴェルヴァーグ前夜
- 第07回 1950年代 (1): ハリウッドの零落/赤狩りと反トラスト法/フィルムノワール
- 第08回 1950年代 (2): 日本映画の全盛期
- 第09回 1960年代 (1): ヌーヴェルヴァーグ
- 第10回 1960年代 (2): ヨーロッパ芸術映画
- 第11回 1970年代: アメリカンニューシネマ
- 第12回 1980年代: スピルバーグの世代/アジア映画の台頭/ポストヌーヴェルヴァーグ
- 第13回 1990年代: CGの導入による映画表現の変化
- 第14回 2000年代以降: 現代映画
- 第15回 総論

<使用教科書>

なし (必要に応じて資料配付)

<自己学習 (予習・復習等) の内容・時間>

講義内で紹介する映画は (短編をのぞき) 殆どが抜粋上映となる。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する (週 90 分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる (週 90 分)。
製作年度や作家、作品名の暗記はそれだけでは意味をなさないので講義内で触れた映画は全編を視聴することを薦める。

演劇の世界

田尻 紀子

2 単位 1年次前期 単独

日進キャンパス

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソースとの関連）>

〔テーマ〕浄瑠璃の成立と古典演劇の展開

1. 「文楽」として親しまれている人形浄瑠璃の成立と展開をたどり日本の文化の理解を深める。
2. 浄瑠璃・歌舞伎の歴史について学び、代表的な作品を鑑賞できるようになる。
3. 現代の日本文化への影響も含めて考察し、古典芸能や日本文化についての理解を深める。

<授業の概要>

「文楽」として親しまれている人形浄瑠璃の成立と展開をたどりながら、浄瑠璃・歌舞伎の歴史について学び、代表的な作品を鑑賞できるようになると共に、現代の日本文化への影響も含めて考察し、古典芸能や日本文化についての理解を深めることを目標とする。浄瑠璃は、江戸時代に「語り」と伴奏を伴った人形劇として完成されたが、その源流は、中世の『平家物語』（平曲）にまで遡る。本講義では、浄瑠璃成立までの歴史的展開をたどった後、大人気を博した近松門左衛門の世話浄瑠璃作品を紹介し、その特色について考察する。また、作品を鑑賞しながら、歌舞伎との関わりや、時代物の三大名作『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』についても言及し、近世に流行した演劇や近世文化が現代に与えた影響について考察する。

<学生に対する評価の方法>

期末の試験の成績（約 80%）や作品鑑賞時等のレポート（約 20%）によって総合的に評価する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第 01 回 オリエンテーション・芸能の起源
- 第 02 回 時代の特徴—中世—
- 第 03 回 『平家物語』と「語り」の成立
- 第 04 回 平曲の衰退と早物語『浄瑠璃物語』の流行
- 第 05 回 浄瑠璃節と人形浄瑠璃の成立
- 第 06 回 歌舞伎と浄瑠璃
- 第 07 回 古浄瑠璃と新浄瑠璃
- 第 08 回 近松門左衛門について
- 第 09 回 世話物の世界—『曾根崎心中』について—
- 第 10 回 世話物の世界—『冥途の飛脚』について—
- 第 11 回 作品鑑賞①
- 第 12 回 時代物の世界—時代物三代名作—
- 第 13 回 『義経千本桜』について
- 第 14 回 作品鑑賞②
- 第 15 回 試験・まとめ

<使用教科書>

必要に応じて資料を配付する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

作品鑑賞に際しては、資料を事前に配付するので、授業の前に目を通したうえで、あらすじや特色など、作品に対する基礎的な知識を身につけておくこと。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週 90 分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週 90 分）。テキストは特に使用せず、講義と配布資料に基づいて授業を進めていくので、講義内容を把握できるよう、ノートを取り方を工夫すること。また、授業を始める前に、コメントの記入できる出席カードを配布するので、疑問をもった点、関心をもった点について、授業終了後に記入して提出すること。特に疑問点については、次回の授業時にも説明するが、自身でも自己学習を通して学びを深めてもらいたい。

スポーツと健康 1(ジャズダンス)

正 美智子

1 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソースとの関連）>

1. いろいろな種類の音楽を用いて、その音色やリズム、アクセントを身体を使って表現することを考え、学習する
2. 基礎的技術の練習では、身体に対する意識を高めて、ダンスエクササイズによる身体コンディショニングの基礎を学習する
3. 身体、精神ともにコントロールすることを身につけ、ジャズダンスに大切なリズム感を養う。そして、音楽にあった感受性豊かな表現力を獲得し、洗練された動きを身につける
4. グループワークにおいてコミュニケーション能力を高め、個性を生かしたジャズダンスを発表する

<授業の概要>

看護師にはその勤務状況から健康の維持向上が求められる。本実習では、ジャズダンスを通じて、将来、何時、何処でも身体を動かしながらストレスを解消し、柔軟な身体をつくり、バランスやリズム感を養い、心と身体を健康に保持するためのスポーツとして身につけたい。また、楽しみながらダンスを長く続けることによって、持久性を養い、トレーニングとしての効果も期待できる。ジャズダンスは、体脂肪の低下や心肺機能の向上など、身体に大変よい影響を及ぼすことが科学的にも証明されており、身体を動かすことの素晴らしさを発見し、心の安定感を得ることもできる実習としたい。

<学生に対する評価の方法>

受講参画態度 30%、課題達成度 50%、実技発表 20%など総合して評価する。再評価は実施しない。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第 01 回 オリエンテーション / 授業の進め方、ジャズダンスの歴史、身体バランスチェック
- 第 02 回 ウォーミングアップについて / ストレッチのポイント、基本的な身体の使い方を理解する
- 第 03 回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(1) / 基本的なストレッチ、首・肩の動きを組み合わせた基本ステップ
- 第 04 回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(2) / 基本的なストレッチ、胸・腰の動きを組み合わせた基本ステップ
- 第 05 回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(3) / 基本的なストレッチ、様々な動きを組み合わせたステップ(1)
- 第 06 回 ウォーミングアップ・クロスフロアー(4) / 基本的なストレッチ、様々な動きを組み合わせたステップ(2)
- 第 07 回 ボディートレーニングについて(1) / アイソレーションについて身体の各部分の基本的な動きを理解する
- 第 08 回 ボディートレーニングについて(2) / アイソレーション・コンビネーション(1)
- 第 09 回 ボディートレーニングについて(3) / アイソレーション・コンビネーション(2)
- 第 10 回 ボディートレーニングについて(4) / アイソレーション・コンビネーション(3)
- 第 11 回 ボディートレーニングについて(5) / アイソレーション・コンビネーション(4)
- 第 12 回 応用(1) / 振付したコンビネーションを覚える、グループワーク(1)
- 第 13 回 応用(2) / 振付したコンビネーションを覚える、グループワーク(2)
- 第 14 回 応用(3) / 振付したコンビネーションを覚える、グループワーク(3)
- 第 15 回 ダンス発表 / グループダンス発表

<使用教科書>

教科書は使用しないが、必要に応じてレジュメを配布する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

授業内で学習したストレッチ、ステップ、コンビネーションダンスな

どを各自復習しておくこと。日常的に15分から20分のトレーニング。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する(週90分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週90分)。
授業で得た知識や動きを次の授業までに再度確認し、練習する必要がある。とくに不得意な点を重点的に注意してトレーニングを行う。

- 第14回 心身とヨガ 5./ ヨガで得た心身の変化を実感しながらヨガを実践する
第15回 まとめ / 総合練習とレポート

<使用教科書>

教科書は使用しないが、必要に応じてレジュメを配布する。

<自己学習(予習・復習等)の内容・時間>

授業で習得したことを日常生活の中で活かすこと。例えば、身体の正しい方や心身の調整などを復習する形で実践してほしい。とくに、呼吸法や瞑想法についての理解を深めてトレーニングを日常的に実践することを期待する。毎日15分から20分程度。
疑問点や分からなところは、質問すること。自己評価ノートを準備して、授業は勿論であるが、日常的にも感想や心身の気づきについて記すこと。ヨガに関連する多様な参考書籍やDVDを随時紹介する予定。

スポーツと健康2(ヨガ)

正 美智子

1 単位 1年次後期 単独

<授業のテーマ及び到達目標(得意・不得意・理由との関連)>

1. 自分自身の心身をより快適な状態にもっていかうとする意識や態度を養う
2. ヨガの基本的な姿勢を練習しながら、しっかり立つこと、理想的な骨格に矯正すること、バランスよく筋肉をつけることを目指す
3. 身体、呼吸、心を調整する身体技法をとおして心と身体のセルフケアができる能力を養う
4. 自らの身体、他者や環境と対話したり、調和していくための実践的な力を養う

<授業の概要>

ヨガは、ゆったりした呼吸や瞑想を組み合わせることで、集中力が上がり、穏やかで揺るぎない精神状態を作り出すことができます。深い腹式呼吸を意識して行います。呼吸で肺、横隔膜を動かすと、全身の血流を良くし、自律神経の活動を整えることができます。心と身体、自身と環境、呼吸と空間の狭間を呼吸、姿勢、瞑想を組み合わせ、心身の緊張をほぐし、心の安定とやすらぎを得るものです。ヨガとは、将にサンスクリット語でこの「つながり」を意味しています。本実習では、将来の看護師としての勤務の過程で多様なストレスや環境変化に遭遇した際にも、常に心と体のバランス、平穏を保つための技法としてヨガを習得します。

<学生に対する評価の方法>

全体を通してワークショップの形態で実施する。受講参画態度 40%、授業への取り組みの姿勢(技法や注意点を習得し、理解しようと努めたか。学んだことを積み重ねて、実際に身につけることができたかなど) 40%、総合レポート(授業に対する理解度) 20%など、総合的に評価する。なお、再試は実施しない。

<授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)>

- 第01回 オリエンテーション、簡単なヨガ / ヨガの歴史やヨガの効果について講義する。身体ほぐしと簡単なヨガのポーズを体験
第02回 ヨガの体験 1./ 予備体操(首、肩、腕の凝りをとる体操)と基本アーサナ(8種のポーズ)の実践
第03回 ヨガの体験 2./ 予備体操と基本アーサナの実践
第04回 ヨガの体験 3./ 予備体操と基本アーサナの実践
第05回 ヨガの知識を深める 1./ ヨガのレクチャー(瞑想法について)、ヨガのアーサナの実践
第06回 現代生活とヨガ 1./ 身体の不調に効果があるヨガのアーサナの実践
第07回 現代生活とヨガ 2./ 身体の不調に効果があるヨガのアーサナの実践
第08回 現代生活とヨガ 3./ 身体の不調に効果があるヨガのアーサナの実践
第09回 ヨガの知識を深める 2./ ヨガの効果についてのレクチャーとアーサナの実践および、プラナーヤマ(呼吸法)について心身とヨガ 1./ アーサナの特徴と心のつながりについて学び、実践する
第10回 心身とヨガ 2./ アーサナの特徴と心のつながりについて学び、実践する
第11回 心身とヨガ 3./ アーサナの特徴と心のつながりについて学び、実践する
第12回 心身とヨガ 4./ ヨガで得た心身の変化を実感しながらヨガを実践する

食と健康

早戸 亮太郎

2 単位 1年次後期 単独

日進キャンパス

<授業のテーマ及び到達目標(得意・不得意・理由との関連)>

[テーマ]

現在、食生活の乱れによる生活習慣病(糖尿病・脂質異常症・高血圧症など)患者が増加傾向にある。本講義では、なぜ食生活が大切なのか、健康でいるためにはどのような食生活が必要なのか、食べ物と生活習慣病の間にどのような関係があるのかについて、考え、理解する。

[到達目標]

人体の構造を知り、食べ物が健康に与える影響を学習し修得できる。

<授業の概要>

本講義では、人体の構造を知り、食べ物が健康に与える影響を学習し修得することを目的とする。現在、食生活の乱れによる生活習慣病(糖尿病・脂質異常症・高血圧など)患者が増加傾向にある。人体の仕組みを理解し、なぜ食生活が大切なのか、健康でいるためにはどのような食生活が必要なのか、食べ物と生活習慣病の間にどのような関係があるのかについて考え、理解する。

<学生に対する評価の方法>

小テスト(60点)、最終試験(40点)により総合評価する。

<授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)>

- 第01回 食と健康 イントロダクション
第02回 炭水化物の構造
第03回 炭水化物の消化と吸収(小テスト)
第04回 タンパク質の構造
第05回 タンパク質の消化と吸収(小テスト)
第06回 脂質の構造
第07回 脂質の消化と吸収(小テスト)
第08回 ビタミンの種類と機能
第09回 ビタミンの種類と機能(小テスト)
第10回 ミネラルの種類と機能
第11回 ミネラルの種類と機能(小テスト)
第12回 食と健康(生活習慣病)
第13回 食と健康(生活習慣病)(小テスト)
第14回 試験および総括
第15回 試験問題の解答解説(フィードバック)

<使用教科書>

適宜、プリントを配布する。

<自己学習(予習・復習等)の内容・時間>

講義内容を振り返り、資料やノートを見直し、早いうちに復習を行うこと。 予習: 90分、復習: 90分

情報リテラシー実習

山本 恭子

1 単位 1年次後期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（「イ・ロハ」リとの関連）>

〔テーマ〕

情報に対する広範で適切な活用力を身につけ、大学生活で必需となるパソコンを用いたレポートの作成方法を学ぶ。

〔到達目標〕

1. パソコンの基本的な取り扱い、ワープロソフトの基本的な活用ができる。
2. SNSやネットの危険性を理解し、適切な利用ができる。
3. レポートの意味、調査方法、書き方を理解し、高い情報リテラシーをもって質の高いレポートが執筆できる。
〔「技法・表現」◎、「知識理解」○〕

<授業の概要>

大学では、学習や研究の成果としてさまざまなレポートを作成しなければならない。レポートを論理的で効果的なものにするためには、インターネットを含めたコンピュータの活用能力に加え、テーマに決め方、調査の進め方、内容のまとめ方といったレポートそのものの作成技法も重要になってくる。これらに対応するため、この授業ではコンピュータの基本から学習を始め、よりよいレポートを効率的に作成するために必要となる考え方や知識を学ぶ。最後に自ら決めた自由なテーマに沿ってレポートの作成を試みる。具体的な演習内容として、①パーソナルコンピュータの基本的な取り扱い（WWWや電子メールによる情報の検索・送受など）、②ワープロソフト（Micro Soft Word）の基本操作、③レポートの書き方とワープロソフトを用いたレポートの作成といった内容が学習の中心となる。演習では、単にパソコンの操作技能だけではなく、ネットワーク社会におけるマナーやソフトウェアの著作権、論理的なレポートを書くために必要な考え方やふさわしい情報の取捨選択といった事柄にまで話題が及ぶことになるであろう。

<学生に対する評価の方法>

普段の受講態度（15%程度）、授業内で提出する基本課題（25%程度）、レポート課題（60%程度）で評価する。

（※科目の性格上 Active Learning はなじまない。）

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 オリエンテーション(受講上の諸注意や講義概要、成績の評価方法などについて説明)
- 第02回 PCの基本操作について知る(概論、各種基本操作、タッチタイプなど)
- 第03回 インターネットとメール活用方法について知る(インターネットの歴史と発展経緯、ネットワーク社会の光と陰、WWWによる情報の検索、電子メールの送受方法、各種パスワードの変更方法など)
- 第04回 ビジネス文書と基本書式について学ぶ(ビジネス文書とは、基本的な書式機能)
- 第05回 作表の方法について学ぶ(作表、イラスト、文字装飾)
- 第06回 描画の方法について学ぶ(図形描画)
- 第07回 基本課題その1(学習した機能を使い複合文書を作成)
- 第08回 基本課題その2(同上)
- 第09回 レポートの書き方について知る1(論理的な文章について)
- 第10回 レポートの書き方について知る2(大学でのレポートとは、書き方、フォーマットについて)
- 第11回 レポートを作成する1(最近のニュースなどより各自がレポートテーマを決める)
- 第12回 レポートを作成する2(インターネットなどを利用した文献調査と考察)
- 第13回 レポートを作成する3(章立て・執筆)
- 第14回 レポートを見直す4(推敲・添削・添削のフィードバックを各自修正)
- 第15回 課題提出とまとめを行う(提出)

<使用教科書>

なし。授業内でテキストの代わりとなるレジュメを公開するので、各自利用されたし。
副教材「情報倫理ハンドブック（noa 出版）」を使用する予定であるが購入される必要はない。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

タイピング練習ではキーを見ないで入力できるよう、時間をみつけて自主学習してほしい。レポート作成では図書館や自宅などでの積極的な情報収集や考察が、数時間程度望まれる。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する(週 90 分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週 90 分)。授業での学習内容を反復練習し、自分自身に定着させてほしい。

表計算実習

山本 恭子

1 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（「イ・ロハ」リとの関連）>

〔テーマ〕

表集計ソフト EXCEL を用いて様々なデータ・情報の収集、管理、分析について学ぶ。

〔到達目標〕

1. 表計算ソフトの基本操作（書式）ができる。
2. 表計算ソフトの基本機能（計算、グラフ、データベース）を理解し、操作できる。
3. アンケートによるデータ収集方法を理解できる。
4. 表計算ソフトの実践的な活用法を理解し、データ処理ができる。
〔「思考・判断」◎、「知識理解」○〕

<授業の概要>

社会では、ワープロや電子メールとならび、表集計ソフトの利用頻度は高い。この授業では、まず代表的な表集計ソフト EXCEL の基本的な使い方から実践的な機能について学習する。その後、各自が決めた目的に従い高機能なワークシートを作成していく。受講者は、実現目標の設定、実現のための問題点抽出、試行錯誤による問題点の解決など、問題解決に必要な様々なプロセスを、これら演習を通して体験していく。このような体験を通じて問題解決のために必要なことは何かを各自が学びとることが本授業の大きなテーマである。本講義を通じて、そのような問題解決の難しさと楽しさを学習し今後の生活に活かしていただければと思う。

<学生に対する評価の方法>

日々の受講態度（20 点程度）、練習問題などの提出状況（10 点程度）、授業内で提出する課題（70 点程度）の完成度で総合的に判断して評価する。課題点は、必須部分を 50 点、複雑な収支計算やグラフ等による家計の視覚化が実現できた場合は、工夫点として 20 点を満点に加点する。（※科目の性格上 Active Learning はなじまない。）

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 オリエンテーション(受講上の諸注意や講義概要、成績の評価方法などについて説明)とデータの入力・編集の基本
- 第02回 書式、印刷、リンク貼り付けなど基本操作の説明
- 第03回 計算機能についての学習
- 第04回 グラフ機能についての学習
- 第05回 データベース機能についての学習
- 第06回 関数の基本、絶対番地、混合番地、IF 関数の基本
- 第07回 IF 関数の入れ子
- 第08回 IF 関数と論理積・論理和
- 第09回 日付処理の方法
- 第10回 検索行列関数の使い方
- 第11回 総合課題① アンケートの設計(看護や健康に関する分野からテーマを選択し、独自のアンケートを設計する)
- 第12回 総合課題② アンケート調査と回答
- 第13回 総合課題③ アンケート集計・解析結果のグラフ化
- 第14回 総合課題④ 調査報告書の作成と提出

<使用教科書>

なし。必要に応じて資料を配布する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

授業での学習内容を反復練習し、自分自身に定着させてほしい。総合課題のアンケート作成では、図書館や自宅などでの積極的な情報収集や考察が、数時間程度望まれる。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。

授業で学んだ EXCEL の操作スキルを、実務の場でどのように活用すればよいか考えてみてほしい。

プレゼンテーション実習		
山本 恭子		
1 単位	1年次後期	単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）>

[テーマ]

スライドを活用したプレゼンテーション技法の修得。

[到達目標]

1. プレゼンテーションの定義、目的が理解できる。
2. PowerPoint を用いた効果的なスライド資料が作成できる。
3. 論理的なプレゼンテーションの組み立てが理解できる
4. スライド資料を活用したプレゼンテーションが実践できる。
 (「技法・表現」◎、「思考・判断」○)

<授業の概要>

プレゼンテーション能力は、学生生活では研究発表、社会人となつてからも企画提案や事業報告など、多くの場面で必要とされている。本科目では、プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) を用いて資料作成の技術を習得する。さらに、論理的なプレゼンテーションの組み立てや話し方を学び、自分の伝えたいことを限られた時間の中で効果的に伝えるプレゼンテーション技法を身につける。授業の成果として、各自で選択したテーマに基づきインターネットや書籍等を活用しながら情報収集を行い、テーマに相応しいスライドと発表シナリオを作成し、対面式のプレゼンテーションを行う。その際に相互評価と自己評価を行い、改善点を把握することでプレゼンテーション能力の向上を目指す。

<学生に対する評価の方法>

以下の各項目の得点を合計し、評価する。

- ・総合試験 (50%) : スライド資料を用いたプレゼンテーションを行う (発表時間 5 分、ビデオ撮影)。
- ・課題 (30%) : 授業内で提出する課題。
- ・受講態度 (20%) : 授業に対する意欲的な取り組みを評価する。
 (※科目の性格上 Active Learning はなじまない。)

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 ガイダンス (授業概要、進め方、成績の評価方法について説明)
- 第02回 「プレゼンテーションとは何か」について考える、PowerPoint の基本操作を学ぶ(1) 画面構成/レイアウトの選択/テキストの入力/ヘッダーフッターの設定
- 第03回 PowerPoint の基本操作を学ぶ(2) 図形の挿入/アニメーションの設定/画面の切り替え効果/スライドショーの実行/リハーサル機能
- 第04回 PowerPoint の基本操作を学ぶ(3) スライドマスター/表・グラフの挿入/サウンドの挿入
- 第05回 PowerPoint の基本操作を学ぶ(4) 配付資料の作成/印刷形式
- 第06回 プレゼンテーション技法を学ぶ(1) ストーリー構成/情報収集の方法
- 第07回 プレゼンテーション技法を学ぶ(2) 話し方・態度・聞き手とのコミュニケーション方法/評価のポイント

第08回 総合試験の準備(1) テーマの設定/ストーリーシートの作成

第09回 総合試験の準備(2) 情報収集

第10回 総合試験の準備(3) スライド作成

第11回 総合試験の準備(4) シナリオを考える

第12回 総合試験の準備(5) リハーサル (時間配分を考える) /レーザーポインタの使い方を知る

第13回 総合試験① プレゼンテーションの実践と相互評価

第14回 総合試験② プレゼンテーションの実践と相互評価

第15回 まとめ プレゼンテーション結果のフィードバックと自己評価

※15回の授業の中で数回にわたり、プレゼンテーションスキルの向上を目的とした発声練習・スピーチ練習を行う。

<使用教科書>

なし。必要に応じて資料を配布する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

総合試験 (プレゼンテーションの実践) に向けて、授業外の時間も有効に使い、構想の立案や情報収集に努めてほしい。図書館や自宅などでの自主学習が数時間程度望まれる。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する (週90分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる (週90分)。

授業以外でプレゼンテーション経験豊富な企業人や教員、学生など、他人のプレゼンテーションを聞く機会があれば、よく観察し、自分のプレゼンテーションに活かしてほしい。

ボランティア演習		
石原 貴代		
2 単位	1年次後期	単独

日進キャンパス

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）>

[テーマ]

本授業では、講義をもってボランティアの理解、現代の社会的課題の発見、社会的問題の解決者としてのボランティアの役割を知り、講義・演習をもってボランティアを実際に行うために必要な知識と技術を得る。さらに、ボランティア活動の実践を通してその意義を探究する。

[到達目標]

1. 社会や人々が抱えている問題に気付く
2. コミュニケーション力の涵養
3. 国際社会へも目を向け、広く人々が抱えている問題に気付く
4. ボランティア活動の意義の理解

<授業の概要>

日本には、親族や集落間で行われてきた結、強制力をもつ奉仕など様々なボランティアの形がある。加えて、社会問題解決のためのボランティアが様々な機関において要請されている現状にある。また、近年多発する自然災害に際しても多くの人々が駆けつけボランティアとして集まる状況にもなっており、ボランティアへの理解は広がったといえよう。しかしながら、要請側はボランティアを人材として考えていたり、ボランティア側も要請内容を容易に引き受けたりすることもあり、雇用との関係性のなかで有償ボランティアが創出されてきている現状でもある。

そこで、本授業では、講義をもってボランティア理解、現代の社会的課題の発見、社会的問題の解決者としてのボランティアの役割を知り、講義・演習をもってボランティアを実際に行うために必要な知識と技術を得た上で、実際にボランティアを実施し、振り返りを行う。本授業では、ボランティアについて幅広く学び、ボランティアとして必要な知識と技術を身に付け、ボランティアとして社会活動に参加することで、社会問題を発見、その課題解決のために自らが果たせる役割に講義、講義・演習、学外演習、演習で構成し、ボランティアについて幅広く学び、ボランティアとして必要な知識等を身につけ、ボランティアとして社会活動に参加することで、社会問題を発見、その課題解決のために自らが果たせる役割に気づくことができる力を養うことを目標とする。

＜学生に対する評価の方法＞

授業への参加 学習状況 30%

講義レポート 40%

最終プレゼンテーション 30%

(別途ボランティアに参加した場合は、ボランティア報告書 ボランティア証明書 ボランティア先評価)により総合評価。

＜授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）＞

- 第01回 【講義】授業概要 授業の進め方（オリエンテーション）
ボランティアとは ボランティアと社会的課題
- 第02回 【講義】日本のボランティア 世界のボランティア
- 第03回 【講義】ボランティアの実際
- 第04回 【講義・演習】ボランティアをするにあたって必要な知識
1 挨拶とコミュニケーション
- 第05回 【講義・演習】ボランティアをするにあたって必要な知識
2 他者理解 言葉を使つてのコミュニケーション
- 第06回 【講義・演習】ボランティアをするにあたって必要な知識
3 事故予防とけがの手当て
- 第07回 【学外演習】ボランティア活動1
- 第08回 【講義・演習】グループ学習1 共同作業
- 第09回 【講義・演習】グループ学習2 ボランティアの心構え
- 第10回 【講義・演習】グループ学習3 考えてみよう
- 第11回 【講義・演習】グループ学習4 あなたにできること
- 第12回 【講義・演習】グループ学習5 困っていることは何だろう
- 第13回 【学外演習】ボランティア活動2
- 第14回 【演習】社会的問題とその解決の方法1 問題となる社会的課題と自分たちでできる問題解決について報告
- 第15回 【演習】社会的問題とその解決の方法2 問題となる社会的課題と自分たちでできる問題解決について報告、全体のまとめ

＜使用教科書＞

授業内で紹介 授業資料の配布

＜自己学習（予習・復習等）の内容・時間＞

常日頃から、新聞、ニュースから社会的問題を概観すること。さらには、解決するにはどのようなことが自分のできるのかと自分事として思考すること。必要な知識については、他者との関係性を常に意識し、学びを身に付けること。演習に際しての課題は授業内で提示する。自己学習のみならず、グループ学習での感じたこと、考えたことが重要である。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。他者との係わりを体感するなかで、その時にしか感じられないことがあります。協力者から聞き取れた事柄や感じたことをノートに記録していきましょう。加えて、新聞、ニュースなどから社会的問題とその背景を探り、自らができるその解決方法を考えておくことが大切です。また、海外へも目を向けて思考してください。実際にボランティア活動に参加し、視野を広げることも大切になります。ボランティア活動に参加する場合は、授業担当者まで相談してください。

コミュニケーション論

岩瀬 信夫

2 単位 1年次前期 単独

日進キャンパス

＜授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）＞

〔テーマ〕

他者や社会を理解し、対人関係の形成・維持にとって重要な役割を担っているコミュニケーションの果たす役割を理解する。

〔到達目標〕

1. 主に社会心理学的観点からコミュニケーションの様相を理解すること。

2. 現実場面におけるコミュニケーションに関わる現象に関心をもち、心理学的に考察できること。

＜授業の概要＞

「コミュニケーション」という用語は日常一般的に使用されるが、その意味は必ずしも明確ではない。このためコミュニケーションの概念について整理した後、社会心理学における位置づけについて説明する。そして、自己に関するコミュニケーションからマスコミュニケーションやインターネットを通じたコミュニケーションについて論じる。

＜学生に対する評価の方法＞

第01回から第14回の授業内で課す小レポートまたは授業の感想や疑問点を記述するリアクションペーパー（40%）と期末の試験の成績（60%）により評価する。

＜授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）＞

- 第01回 コミュニケーションとは何か
- 第02回 コミュニケーションの社会心理学
- 第03回 非言語的コミュニケーション
- 第04回 言語的コミュニケーション
- 第05回 情報の伝達と変容 ～コミュニケーションの難しさを考える
- 第06回 ありのままの自分を伝える 自己開示
- 第07回 さらに出せない自己もある 自己呈示
- 第08回 他者の態度や行動を変化させる 説得的コミュニケーション
- 第09回 他者と取引する 対人交渉
- 第10回 囚人のジレンマ 二者間の社会的ジレンマを考える
- 第11回 コミュニケーション相手への配慮 ポライトネス
- 第12回 コミュニケーション相手への間接的攻撃 アイロニー
- 第13回 コミュニケーションの失敗 誤解と透明性錯覚
- 第14回 嘘と説得のコミュニケーション
- 第15回 試験と解説

＜使用教科書＞

特定の教科書は使用しない。授業各回にてプリントを配布し、参考文献については適宜紹介する。

＜自己学習（予習・復習等）の内容・時間＞

シラバスに示されるテーマあるいはキーワードについて、事前に検討する（週60分）。

授業時に紹介される参考文献を読んで各テーマの理解をより深める（週120分）。

シラバスに示されるテーマあるいはキーワードについて、注目すること。

倫理と看護

齊藤 伊都子

2 単位 1年次前期 単独

＜授業のテーマ及び到達目標（ディプロマ・リソとの関連）＞

実践の中にある日常的な現象を、それぞれの立場に立って考え、分析し、看護の倫理原則を踏まえて判断し、時には相手の立場から見る目を養うこと通して看護職に必要な倫理観を育てる。

＜授業の概要＞

専門的職業人として、看護における人間観、職業観、倫理観、看護観など、基礎知識および倫理的問題について、その課題発見能力、課題の解決能力を学習する。特に看護実践、看護経験において、陥りやすい或いは、遭遇しやすいジレンマ、価値観、失望感等に気づき、感受性を高め、倫理的力を養う。看護における実践者としての適切な倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行う知識を習得する。看護実践が行われる保健・医療・福祉・介護等の様々な分野、また人間生活の営みが行われるあらゆる場において生じる倫理的問題や葛藤に対して関心をもち、それらを敏感に感じ取る共感性を養う。さらに社会状況の変化と看護倫理の関係性に関心をもち、看護実践者と

して、今後の看護倫理のあり方や方向性について習得できる素養を養成する。

<学生に対する評価の方法>

知識テスト 60点

レポート 40点 テーマ「看護倫理の問題にどう取り組むか」

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 倫理の基本的考え方
- 第02回 医療現場における倫理の歴史的経過
- 第03回 現代医療における様々な倫理的課題 生と死
- 第04回 現代医療における様々な倫理的課題 先端医療
- 第05回 看護の本質と倫理、専門職の倫理、看護者の倫理綱領
- 第06回 ケアリングの倫理
- 第07回 看護実践における倫理問題とそのアプローチ
- 第08回 看護実践における倫理問題とそのアプローチ
- 第09回 「看護倫理 見ているものが違うから起きること」
医学書院 吉田みつこ著
事例の分析、グループワーク：グループ毎にケース1・2の看護内容を整理
- 第10回 「看護倫理 見ているものが違うから起きること」
医学書院 吉田みつこ
事例の分析、グループワーク：グループ毎にケース1・2の看護内容を分析
- 第11回 「看護倫理 見ているものが違うから起きること」
医学書院 吉田みつこ著
事例の分析、グループワーク：グループ毎に2つのケースの看護内容をまとめる
- 第12回 各グループプレゼンテーション ケース1・グループ
- 第13回 各グループプレゼンテーション ケース2・グループ
- 第14回 看護研究の倫理
- 第15回 まとめ（これからの看護職に必要な倫理観と自己の課題）

<使用教科書>

医学書院『看護倫理』見ているものが違うから起きること（吉田みつこ著・川島みどり編集）

医学書院『看護学概論』第5章（看護学概論のテキストの一部（抜粋））

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

言葉の意味がとらえにくかったり、事象の中に起きていることがイメージしにくい場合、具体的に説明を求める。また事象は自分の頭の中に像を描き、自分はどうか考えるか明らかにする。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。

「倫理」は質の高い看護、患者中心の看護ケアの実現に欠くことが出来ない。また、看護師の実践には、看護師の「考え」や「行動」が示されるが、その中に個人の「道徳」や「規範」が含まれる。すなわち看護実践は倫理観が問われる。そして、看護の対象である人間の本质や対象の理解、医療の現場にある診断や治療・処置といった生命・医療倫理的課題を科学的に判断し、また自分の価値観・信念との関係性を踏まえながらどう看護に向き合っていくかは、看護職を目指す者にとって、倫理的課題である。様々な事例を学ぶ中で自己の考えを持つ、自分の価値観を知ることが必要である。

●看護学部 看護学科

専門基礎入門1 (看護と生物)

早戸 亮太郎

1 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標 (ディプロマポリシーとの関連) >

[テーマ]

これから人体の仕組みを学ぶために必要不可欠な生物学の基礎知識を習得することが、本授業のテーマである。生物学という観点から基礎的な人体生物学的知識の習得を目指す。生物学から生命科学への発展を理解し生命科学や人体の構造と機能を理解するため、人体生物学の基礎知識固めを行う。

[到達目標 (ディプロマポリシー [DP] との関連)]

1. 人体がどのような構造を持つのか、化学レベル、細胞レベル、組織レベル、臓器レベル、器官レベル、個体レベルで説明できる。
 2. 人体を構成する細胞や臓器がどのような機能を持つか、説明できる。
 3. 基本的な人体の構造と機能の説明ができる。
- なお、本学部の掲げる4つのDPの内、DP1:さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる、DP2:看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる、と関連している。

<授業の概要>

生物学を学ぶ目的は、生命を特徴づける①細胞②秩序③動的平衡④エネルギー⑤恒常性、等を学ぶことで、ヒトを対象とした生命現象の共通性や特異性を学ぶことにある。ミクロレベルでの細胞の構造から物質代謝、生殖、発生、遺伝、生態など、生物学の基礎的現象まで広範に学ぶ。生命の神秘、尊厳、深淵さまでを発展的学習とする。

<学生に対する評価の方法>

授業態度、期末の試験を総合的に評価する。

<授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等) >

- 第01回 細胞の構造と機能
- 第02回 生体維持のエネルギー
- 第03回 組織・臓器・器官
- 第04回 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ
- 第05回 生殖と発生
- 第06回 各器官系の働き
- 第07回 各器官系の働き
- 第08回 刺激の受容と行動

<使用教科書>

『系統看護学講座 基礎分野 生物学』(医学書院)

<自己学習 (予習・復習等) の内容・時間>

予習: 90分、復習: 90分

生体の構造や仕組みには必ず理由がある。この理由を“暗記”ではなく“理解”する。

授業終了後は早めに復習すること。また専門用語が多数出てくるので、それらの意味を理解すること。

専門基礎入門2 (看護と化学)

間崎 剛

1 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標 (ディプロマポリシーとの関連) >

[テーマ]

化学とは、物質について学ぶ学問領域である。我々の身体は、物質から構成されている。したがって、人体の仕組み(解剖生理学)を学ぶにあたり、あらかじめ化学を習得しておく必要がある。また、我々が摂取する食品や薬物も物質である。そのため、食品や薬物の人体にお

ける役割(栄養代謝学、薬理学)を学ぶためにも、化学を習得しておく必要がある。

[到達目標 (ディプロマポリシー [DP] との関連)]

1. 物質が何から、どのようにして成り立っているのかを、説明できるようになる。
2. 物質の状態にはどのようなものがあるのかを、説明できるようになる。
3. 物質の性質と変化について、説明できるようになる。
4. 有機化合物の種類や構造、性質、変化について、説明できるようになる。

なお、本学部の掲げる4つのDPの内、「DP1:さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。DP2:看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。」と関連している。

<授業の概要>

化学を学ぶ目的は、ヒトの正常な活動や疾病を理解するうえでの身体を構成する物質と、その反応を知ることにある。無機化学では、代謝を理解するための、化学結合、溶液とコロイド、化学反応、塩・酸・アルカリ、電解質を学ぶ。有機化学では、糖、タンパク質、脂質を学ぶ。化学的知識は、専門基礎分野の「解剖生理学」「栄養代謝学」「薬理学」を理解するうえでの基本的・包括的・直接的知識となる。

<学生に対する評価の方法>

試験の得点(100%)により評価する。試験を欠席した場合は、単位不認定となる。

<授業計画 (回数ごとの内容、授業技法等) >

- 第01回 原子の構造<陽子、中性子、電子、原子核、電子殻、周期表、イオン>
- 第02回 化学結合<イオン結合、金属結合、共有結合、極性分子と非極性分子、水素結合>
- 第03回 物理量<SI単位、物理量、原子量、分子量、物質質量、有効数字、ファン・デル・ワールス力>
- 第04回 物質の三態<固体、液体、気体、状態変化、状態図、ボイル・シャルルの法則>
- 第05回 溶液の化学<溶解と析出、溶解度、沸点上昇と凝固点降下、浸透圧、電解質、濃度、コロイド>
- 第06回 中和反応と酸化還元反応<pH、酸・塩基の価数と強弱、中和反応、酸化数、酸化剤と還元剤>
- 第07回 有機化合物<炭化水素、官能基、異性体、有機化合物の反応>
- 第08回 糖・たんぱく質・脂質<単糖、オリゴ糖、多糖、アミノ酸、タンパク質、脂肪酸、中性脂肪、リン脂質、ステロイド>

<使用教科書>

杉田良樹著『系統看護学講座 基礎分野 化学』(医学書院)

【参考図書】「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」数研出版編集部編集(数研出版)

<自己学習 (予習・復習等) の内容・時間>

今回の講義に登場する語句について、教科書や図書館の専門書を利用して調べる(週60分)。

授業中にとったノートをもとに、試験勉強用のノートを作成する(週90分)。

e-Learningの練習問題に取り組む(週30分)。

高校で化学基礎を受講しなかった者には、難しい内容かもしれない。その場合は、教員に質問したり、図書館にある解説書を利用するといった、授業外の自助努力が欠かせない。

専門基礎入門3 (看護と物理)

水野 慎士

1 単位 1年次後期 単独

<授業のテーマ及び到達目標 (ディプロマポリシーとの関連) >

[テーマ]

物理学の様々な分野のうち、看護師の教養として必要な内容を理解す

る。特にベッドサイドでの看護に関連する力学、ボディメカニクス、圧力、熱や光などを中心に習得する。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

- ・日常生活の様々な物理現象の仕組みを理解する。
- ・物理学の知識を用いることで、看護対象者と看護師のどちらにとっても安全安心で負荷の少ない看護ができることを理解する。
- ・看護に関する様々な事例を科学的根拠に基づいて考える習慣を身に付ける。

DP1：さまざまな健康レベルの生活者を「看護の対象」とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。

DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化できる。

<授業の概要>

物理学を学ぶ目的は、「科学的なものの考え方に慣れる」ことであり、ボディメカニクスや理学療法のような看護の現場で直接役立つ知識の習得にある。日常生活を良く観察すると、基本的な法則に支配されている「物の見方の転換」に気づく。例えば、基本的な運動と力の法則、熱と温度、音と光、電気と磁気などである。これら内容の身近な題材の数値的な計算についても学び、看護学への応用を図る。

<学生に対する評価の方法>

授業への参加および学習状況(30%)、筆記試験(70%)

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 ベクトルと力
- 第02回 力のモーメント
- 第03回 身体と力学
- 第04回 圧力の基礎
- 第05回 呼吸・吸引と物理
- 第06回 点滴、血圧と物理
- 第07回 感覚器と物理
- 第08回 まとめ

<使用教科書>

「系統看護学講座 基礎分野 物理学」(医学書院)
「看護学生のための物理学」(医学書院)

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

受講前には教科書を用いて予習、受講後は教科書および配布資料を用いて復習に努めて下さい。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する(週90分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週90分)。

物理学は基礎的な数学と基礎的な物理法則を用いて論理的に考えることで、一見難しそうに感じる内容も容易に理解できるようになる。授業内では日常生活や看護の基礎的業務の中の物理現象を取り上げること、興味を持ちながら物理学を習得できるように講義する。

専門基礎入門4（看護と統計）

神頭 和子

1 単位 1年次後期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

統計学の基礎知識を習得し、データを正しく読み取る力を付ける。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

- 1. 統計学の概念を理解し、専門用語を用いて説明できる。
- 2. 統計学の基礎的手法が理解できる。
- 3. 白書などに示されたデータを正しく読み取り、対象の生活の実態を把握できる。

DP1：さまざまな健康レベルの生活者を「看護の対象」とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。

DP4：真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。

<授業の概要>

統計学を学ぶ目的は、データを読み取るための統計学的な基礎知識を習得することにある。データ分析のための平均値・中央値・分散・標準偏差・帰無仮説とその棄却、有意水準、t検定や相関分析・回帰分析法などの統計学的手法を学ぶ。「国民衛生の動向」「高齢者白書」「国民生活白書」などに示されるデータの読み取り、医療や疾病動向、対象の生活の実態を把握し、疾病の予防、健康増進の対策や支援、生活の再建のための資料とする。また、看護研究を実践するために必要な母集団とサンプリング、クロス集計やカイ二乗検定などの活用もねらいとする。

<学生に対する評価の方法>

アクティブラーニングを活用して授業内に説明場面を設けるのでその参画度(20%)、毎回の振り返りシートの内容(30%)、テスト(50%)を総合的に評価する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 オリエンテーション、第1章統計学入門
- 第02回 第2章統計データの種類とまとめ方
- 第03回 第2章統計データのグラフ表示
- 第04回 第3章確率と確率分布・第1章と第2章の試験
- 第05回 第3章離散分布・連続分布・標本分布
- 第06回 第4章母集団と標本
- 第07回 第4章推定
- 第08回 統計学のまとめ・試験

<使用教科書>

『系統看護学講座 基礎分野 統計学』(医学書院)

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

教科書とノートを基に当日の復習をし、次回の内容を教科書を読んで予習をして授業に臨むこと。シラバスあるいは授業時に示される次の授業で扱われる話題について予習する(週90分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週90分)。新聞の各種統計に関心を持ち、自ら資料を読み取ったうえで記事を読み、データを正しく読み取る力を付けることを意識的に行う。

解剖生理学1

小林 身哉

2 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

医学・医療の進歩にともない、看護師が知っておくべき解剖学・生理学の知識は格段に増えている。膨大な解剖生理学の知識と臨床的課題とを結びつけて考える力が必要となる。人間の全体像について、その成り立ち、働き、どのような異常が病気につながるのかなど分野横断的に理解する力をつけるのが本科目の目的である。

- 1. 正常な人体の仕組みについて、細胞のレベルから組織、器官、個体に至るまでの体の成り立ちを系統的に学ぶ。正常構造と正常な機能を知ってはじめて人体の病的変化を理解することができる。
- 2. 人体を最小単位である細胞のレベルで理解する。
- 3. 人体を、同種の細胞からなる四大組織の統合型として理解する。
- 4. 人体の成り立ちを明らかにする解剖学と各臓器の働きを明らかにする生理学が統合されたものとして解剖生理学を学ぶ。
- 5. 受精卵から始まる人体の発生について理解を深める発生学を学ぶ。
- 6. 研究マインドを持ち、学びを超えて探究する看護師となるために解剖生理学の基礎的な力を蓄える。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

DP1：さまざまな健康レベルの生活者を「看護の対象」とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。

DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化できる。

<授業の概要>

人体の構造を頭部から下肢へと著した、F・ネッターの解剖学的分類

に基づき教授する。1では「頭頸部」と「胸部」を学ぶ。「頭頸部」では脳脊髄神経系と頭部及び感覚器系（眼・耳・味覚・痛み）の構造を学ぶ。脳脊髄神経系では、脳脊髄・頭部の解剖、脳の機能（脳波と睡眠・記憶・ホメオスターシス）と神経伝達路、感覚器系では解剖、感覚機能と体表からみた骨格・筋・動脈も学ぶ。「胸部」では、呼吸器系及び循環器系を学ぶ。呼吸器系では、解剖、ガス交換、肺の循環と血液、血液の組成と機能、循環器系では、心臓の構造、心臓の拍出機能と伝導のしくみ、末梢循環器系のしくみ、血圧のメカニズム、リンパとリンパ管の構造と循環を学ぶ。

<学生に対する評価の方法>

授業への参加および学習状況（20%） 問題演習（10%） 筆記試験（70%）から総合的に判断する。授業への参加の評価においてはアクティブラーニングを活用し、学生による課題の発見を重視する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 解剖生理学を学ぶための基礎知識 人体の階層構造 細胞と組織（第1章）
- 第02回 人体の素材としての細胞・組織（第1章）
- 第03回 情報の受容と処理 神経系の構造と機能（第8章）
- 第04回 情報の受容と処理（第8章） 中枢神経系
- 第05回 情報の受容と処理（第8章） 末梢神経系
- 第06回 自律神経系と内分泌 内臓機能の調節（第6章）
- 第07回 感覚器系（第8章）
- 第08回 外皮（第9章） 皮膚の構造と機能
- 第09回 呼吸器系（第3章） 呼吸器系の構造
- 第10回 呼吸器系（第3章） 呼吸の生理
- 第11回 血液（第3章）
- 第12回 循環器系（第4章） 心臓の構造と機能
- 第13回 循環器系（第4章） 末梢循環器系の構造と機能
- 第14回 免疫系（第9章） 外部環境からの防御
- 第15回 テストと解説（発展的課題）・まとめ

<使用教科書>

『系統看護学講座 解剖生理学』（医学書院）
（参考書）解剖学講義 伊藤隆 著（南山堂）、標準生理学（医学書院）、ネッター解剖学アトラス

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

教科書に準拠したサブノート「解剖生理学ノート」を作成し配布する。復習として、毎回の授業後にノート巻末の問題演習および課題を解く（60分）。予習としては、次回の授業の範囲となる教科書の頁を精読し授業に備える（60分）。

解剖生理学 2

小林 身哉

2 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

医学・医療の進歩にともない、看護師が知っておくべき解剖学・生理学の知識は格段に増えている。膨大な解剖生理学の知識と臨床的課題とを結びつけて考える力が必要となる。人間の全体像について、その成り立ち、働き、どのような異常が病気につながるのかなど分野横断的に理解する力をつけるのが本科目の目的である。

1. 正常な人体の仕組みについて、細胞のレベルから組織、器官、個体に至るまでの体の成り立ちを系統的に学ぶ。正常構造と正常な機能を知ってはじめて人体の病的変化を理解することができる。
2. 人体を最小単位である細胞のレベルで理解する。
3. 人体を、同種の細胞からなる四大組織の統合型として理解する。
4. 人体の成り立ちを明らかにする解剖学と各臓器の働きを明らかにする生理学が統合されたものとして解剖生理学を学ぶ。
5. 受精卵から始まる人体の発生について理解を深める発生学を学ぶ。
6. 研究マインドを持ち、学びを超えて探求する看護師となるために解剖生理学の基礎的な力を蓄える。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

DP1：さまざまな健康レベルの生活者を「看護の対象」とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。

DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探求・具現化できる。

<授業の概要>

解剖生理学2では、「消化器系」の腹部（口・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）の構造、膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、「泌尿器系」では腎臓の構造と機能、排尿路として尿管・膀胱の構造と機能、体液の調整として、水・電解質の異常・塩酸基平衡を学ぶ。「生殖器系」では男性・女性（乳房含む）の生殖器の構造と機能、受精、成長と老化も含める。「骨」では人体の骨格、骨の形態と構造、骨の機能、骨格筋の神経支配、体幹・上肢・下肢・骨盤の構造、「筋」では筋肉の名称、収縮機能、随意・不随意筋の特徴を学ぶ。

<学生に対する評価の方法>

授業への参加および学習状況（20%） 問題演習（10%） 筆記試験（70%）から総合的に判断する。授業への参加の評価においてはアクティブラーニングを活用し、学生による課題の発見を重視する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 消化器系（第2章） 栄養の消化と吸収
- 第02回 消化器系（第2章） 腹部消化管①
- 第03回 消化器系（第2章） 腹部消化管②
- 第04回 消化器系（第2章） 消化腺（肝・胆・膵）
- 第05回 泌尿器系（第5章） 腎臓の構造と尿の生成
- 第06回 泌尿器系（第5章） 排尿路
- 第07回 水分平衡（第5章）
- 第08回 生殖器系（第10章） 男性生殖器系
- 第09回 生殖器系（第10章） 女性生殖器系
- 第10回 生殖器系（第10章） 人体の発生
- 第11回 骨格系（第7章） 全身の骨格
- 第12回 骨格系（第7章） 骨の機能
- 第13回 筋系（第7章） 全身の筋肉
- 第14回 筋系（第7章） 筋肉の収縮メカニズム
- 第15回 テストと解説（発展的課題）・まとめ

<使用教科書>

『系統看護学講座 解剖生理学』（医学書院）
（参考書）解剖学講義 伊藤隆 著（南山堂）、標準生理学（医学書院）、ネッター解剖学アトラス

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

教科書に準拠したサブノート「解剖生理学ノート」を作成し配布する。復習として、毎回の授業後にノート巻末の問題演習および課題を解く（60分）。予習としては、次回の授業の範囲となる教科書の頁を精読し授業に備える（60分）。

栄養代謝学

井澤 一郎

2 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

我々は生命を維持するために栄養を摂取してエネルギーを得なければならないが、本講義は、栄養素の摂取・消化・吸収と体内での代謝についての基本的な知識を身につけ、栄養と健康との関りについての理解を深めることを目標とする。また、様々な病気の治療において、患者さんの栄養状態の改善が病気からの回復を促進することから、臨床に必要な栄養学的思考力を養うことも目指す。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

1. 栄養素の消化吸収の仕組みを説明することができる。
2. 三大栄養素の生体内でのはたらきとそれらの代謝調節の仕組みを説明することができる。
3. エネルギー必要量を説明することができる。

DP1：さまざまな健康レベルの生活者を「看護の対象」とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。

DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化できる。

<授業の概要>

栄養代謝学を学ぶ目的は、食物の摂取にかかわる生理機能、栄養の吸収・代謝・異化について学ぶことにある。この生体物質と代謝によって生命活動が維持されている。生体を構成している糖質、脂質、タンパク質、核酸などの生体物質と生体物質が相互に化学変化する代謝について、分子レベルから学び、生命活動の維持について理解する。代謝に関する基礎知識は、健康の維持、疾患の原因の理解、疾患の早期発見のための検査、疾患の予防や治療、医薬品の開発のためにも役立つことも学ぶ。最先端領域である遺伝情報の仕組みも理解する。

<学生に対する評価の方法>

試験（授業内小テストおよび期末の試験、95%）、受講態度（5%）で総合的に評価を行う。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 栄養の概念
- 第02回 食物の摂取・消化・吸収と栄養素の体内動態
- 第03回 生体エネルギー学と代謝の概観
- 第04回 炭水化物の栄養
- 第05回 脂質の栄養
- 第06回 タンパク質の栄養
- 第07回 ビタミンの栄養
- 第08回 ミネラル（無機質）の栄養
- 第09回 水・電解質の栄養的意義
- 第10回 核酸の代謝
- 第11回 エネルギー代謝
- 第12回 栄養状態の評価・判定
- 第13回 遺伝情報とその発現
- 第14回 試験および総括
- 第15回 試験に対するフィードバック、および授業で十分説明できなかった事項や質問の多かった事項の説明

<使用教科書>

- 『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学』医学書院
- 『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学』医学書院

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる事項について予習する（週90分）。授業時に生じた疑問点等について自ら調べ、ノートにまとめる（週90分）。すべての病気の治療において、患者さんの栄養状態を把握して改善していくことが必要不可欠であるため、本授業で栄養代謝学の基本的な考え方を身につけてほしい。自分の日常の食生活で十分な栄養が取れているかを確認したり、普段から栄養に関する報道にも注意するようにしてほしい。

病理学

未定

1 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

[テーマ]

疾病における形態的・機能的変化の関連と病理診断の意義を理解する。[到達目標（ディプロマポリシー [DP] との関連）]

1. 疾病の原因・発症・進展の過程等の病理学的基礎知識が適切な看護を実践するために必要であることを理解する。
2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。
3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解

できる。

DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。

DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。

DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

<授業の概要>

病理学を学ぶ目的は、解剖学・生理学・生化学・微生物学などの基礎医学の知識を土台として、臨床医学を理解することにある。総論では、細胞の障害と修復、炎症と免疫、感染症、腫瘍、循環障害、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常について学び、炎症・循環障害・腫瘍など、臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、原因や病気の成り立ちなどを学ぶ。各論では、循環器系、血液・造血器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器・生殖器系、内分泌系、脳・神経・筋肉系、骨・関節系、眼・耳・皮膚の疾患について学ぶ。

<学生に対する評価の方法>

アクティブラーニングを活用して、質疑応答時における参画度（20%）、アクションペーパー（20%）、試験（60%）から総合的に評価する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- <第1部>病理学総論
- 第01回 はじめに 第1章：病理学で学ぶこと 第2章：細胞・組織の障害と修復
- 第02回 第3章：循環障害 第4章：炎症と免疫・移植と再生医療 第5章：感染症
- 第03回 第6章：代謝障害 第7章：老化と死
- 第04回 第8章：免疫異常と遺伝子異常 第9章：腫瘍
- <第2部>病理学各論
- 第05回 第10章：循環器系の疾患 第11章：血液・造血器系の疾患 第12章：呼吸器系の疾患
- 第06回 第13章：消化器系の疾患 第14章：腎・泌尿器系および乳腺の疾患 第15章：内分泌系の疾患
- 第07回 第16章：脳・神経・筋肉系の疾患 第17章：骨・関節系の疾患 第18章：眼・耳・皮膚の疾患
- 第08回 病理学のまとめと試験

<使用教科書>

- 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進①病理学』医学書院

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病理学の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。普段から、新聞やテレビニュースなどを活用し、世界や日本における社会情勢や保健・医療・福祉に関する情報を得ておくこと。筋萎縮性側索硬化症に罹患した理論物理学者を主人公に描いた映画『博士と彼女のセオリー』（The Theory of Everything）やパーキンソン病の治療薬に関わる映画『レナードの朝』（Awakenings）なども、お勧めである。

診断治療学概論

奥田 聡

1 単位 1年次前期 単独

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

[テーマ]

生体に現れる反応の指標を基に診断する過程を理解するとともに、治療の概要を理解する。

[到達目標（ディプロマポリシー [DP] との関連）]

1. 疾病の診断に必要な各種検査の原理、方法、意義について説明できる。
 2. 疾病の各種治療法の原理、方法、意義について説明できる。
 3. 看護の対象の安全と苦痛を考慮した行動ができる。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学

としての看護を実践できる。

DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。

DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

<授業の概要>

診断治療学の目的は、基礎と、治療法について学ぶことである。診断の基本となる各種検査法として①一般検査②血液検査③生化学検査④内分泌検査⑤感染症検査⑥腫瘍マーカー⑦生理学的検査⑧画像診断⑨病理検査等、について学ぶ。治療法としては、①薬物療法②食事療法③運動療法④リハビリテーション療法⑤放射線療法⑥内視鏡的治療⑦手術療法、について学ぶ。

<学生に対する評価の方法>

アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度（20%）、リアクションペーパー（20%）、試験（60%）から総合的に評価する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 はじめに、一般検査、血液検査、生化学検査
- 第02回 免疫・血清検査、ホルモン検査
- 第03回 微生物検査、病理検査
- 第04回 生理学的検査他
- 第05回 薬物療法、放射線療法
- 第06回 食事療法、運動療法、リハビリテーション療法
- 第07回 手術療法、内視鏡的治療他
- 第08回 診断治療学概論のまとめ（発展的課題紹介を含む）と試験

<使用教科書>

『系統看護学講座・別巻 臨床検査』（医学書院）
『新体系 看護学全書〈別巻〉 治療法概説』（メヂカルフレンド社）

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の診断治療学の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。
普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する放送などが多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、心がけてほしい。

病態治療学 1

伊藤 洋人、他

2 単位	1年次後期	オムニバス
------	-------	-------

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

脳脊髄神経系・感覚器系の主な疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

1. 脳脊髄神経系・感覚器系疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。
2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。
3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。

DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。

DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。

DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

<授業の概要>

「脳脊髄神経系」「感覚器系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。脳神経・筋肉系、感覚器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。脳脊髄神経疾患では、脳梗塞、脳出血、髄膜炎、脳腫瘍、パーキンソン病、ALS、MS、ギランバレー症候群、筋ジストロフィー等を学ぶ。感覚器系疾患では、緑内障、白内障、網膜剥離、中耳炎、鼻炎、慢性扁桃炎、上顎がん、喉頭がん、湿疹、蕁麻疹、扁平上皮がん、メラノーマ等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。

<学生に対する評価の方法>

アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度（20%）、リアクションペーパー（20%）、試験（60%）により総合的に評価する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 はじめに
- <第1部>脳脊髄神経系
- 第02回 主な症状と病態生理
- 第03回 検査
- 第04回 主な疾病と治療1（脳疾患）
- 第05回 主な疾病と治療2（脊髄疾患、末梢神経疾患）
- 第06回 主な疾病と治療3（神経・筋疾患）
- 第07回 主な疾病と治療4（感染症、認知症等）
- 第08回 病態治療学1のまとめ（発展的課題紹介を含む）と試験
- <第2部>感覚器系
- 第09回 耳鼻咽喉科疾患と治療1（耳疾患）
- 第10回 耳鼻咽喉科疾患と治療2（鼻疾患、咽喉頭疾患等）
- 第11回 眼科疾患と治療1（眼瞼・結膜・角膜疾患）
- 第12回 眼科疾患と治療2（網膜・視神経疾患等）
- 第13回 皮膚疾患と治療1（炎症・感染症疾患）
- 第14回 皮膚疾患と治療2（腫瘍・味覚疾患等）
- 第15回 病態治療学1のまとめ（発展的課題紹介を含む）と試験

<使用教科書>

『系統看護学講座・専門分野Ⅱ 成人看護学（7）脳・神経』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ 成人看護学（12）皮膚』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ 成人看護学（13）眼』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ 成人看護学（14）耳鼻咽喉』医学書院
『系統看護学講座・別巻 臨床外科看護各論』医学書院
『イメージできる病態生理学』メディカ出版

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の診断治療学の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。
普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する放送などが多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、心がけてほしい。

病態治療学 2

坂 英雄、他

2 単位	1年次後期	オムニバス
------	-------	-------

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

呼吸器系、循環器系の主な疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。

病態治療学 3

島田 昌明、他

2 単位 1年次後期 オムニバス

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

1. 呼吸器系・循環器系疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。
 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。
 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。
- DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。
- DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

<授業の概要>

「呼吸器系」「循環器系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。呼吸器系、循環器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。呼吸器系疾患では、肺炎、気管支喘息、肺塞栓症、肺がん、胸膜炎、気胸等を学ぶ。循環器系疾患では、心不全、狭心症、心筋梗塞、心奇形、動脈硬化、心臓弁膜症、高血圧等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。

<学生に対する評価の方法>

アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度(20%)、リアクションペーパー(20%)、試験(60%)により総合的に評価する。

<授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)>

- 第01回 はじめに
＜第1部＞呼吸器系
- 第02回 主な症状と病態生理
- 第03回 検査
- 第04回 主な病態と治療1(呼吸不全、上気道・気管支の疾患)
- 第05回 主な病態と治療2(肺の疾患)
- 第06回 主な病態と治療3(胸膜の疾患)
- 第07回 主な病態と治療4(縦隔腫瘍、胸部外傷)
- 第08回 病態治療学2のまとめ(発展的課題紹介を含む)と試験
＜第2部＞循環器系
- 第09回 主な症状と病態生理
- 第10回 検査
- 第11回 主な疾病と治療1(虚血性心疾患、血圧異常)
- 第12回 主な疾病と治療2(不整脈、弁膜症、心膜炎)
- 第13回 主な疾病と治療3(心筋疾患、肺性心、先天性心疾患)
- 第14回 主な疾病と治療4(血管の疾患、心臓血管手術の適応と管理)
- 第15回 病態治療学2のまとめ(発展的課題紹介を含む)と試験

<使用教科書>

『系統看護学講座・専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ 成人看護学(3)循環器』医学書院
『イメージできる病態生理学』メディカ出版

<自己学習(予習・復習等)の内容・時間>

テキストとノートを基に当日の復習(90分)、次回の病態治療学2の内容を事前に予習(90分)し、講義に臨むこと。
普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する放送などが多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけな。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、心がけてほしい。

<授業のテーマ及び到達目標(ディプロマポリシーとの関連)>

〔テーマ〕

消化器系・腎・泌尿器系・生殖器系の主な疾患の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。

〔到達目標(ディプロマポリシー〔DP〕との関連)〕

1. 消化器系・腎・泌尿器系・生殖器系疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。
 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。
 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。
- DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。
- DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

<授業の概要>

「消化器系」「腎・泌尿器系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。消化器系、腎・泌尿器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。消化器系疾患では、胃がん、胃十二指腸潰瘍、食道がん、イレウス、大腸がん、肝炎、肝硬変症、肝がん、胆石症、膵炎、膵臓がん等を学ぶ。腎・泌尿器系では、糸球体腎炎、腎不全、腎がん、尿路結石等、生殖器系では、前立腺肥大、前立腺がん等、子宮筋腫、子宮がん、卵巣腫瘍、乳がん等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。

<学生に対する評価の方法>

アクティブラーニングを活用して、質疑応答時における参画度(20%)、アクションペーパー(20%)、試験(60%)により総合的に評価する。

<授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)>

- 第01回 はじめに
＜第1部＞消化器系
- 第02回 主な症状と病態生理
- 第03回 検査
- 第04回 主な疾病と治療1(口腔疾患、食道疾患)
- 第05回 主な疾病と治療2(胃疾患)
- 第06回 主な疾病と治療3(腸疾患、腹膜疾患)
- 第07回 主な疾病と治療4(肝臓疾患、胆嚢疾患等)
- 第08回 病態治療学3のまとめ(発展的課題紹介を含む)と試験
＜第2部＞腎・泌尿器系
- 第09回 主な症状と病態生理
- 第10回 検査
- 第11回 主な疾病と治療1(腎・尿路系疾患等)
- 第12回 主な疾病と治療2(男性生殖器系疾患)
- ＜第3部＞女性生殖器系
- 第13回 主な症状と病態生理、検査
- 第14回 主な疾病と治療(外陰・膣・子宮・卵巣疾患、不妊症、乳癌)
- 第15回 病態治療学3のまとめ(発展的課題紹介を含む)と試験

<使用教科書>

『系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(5)消化器』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(8)腎・泌尿器』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(9)女性生殖器』医学書院
『イメージできる病態生理学』メディカ出版

＜自己学習（予習・復習等）の内容・時間＞

テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病態治療学3の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。
普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する放送などが多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、心がけてほしい。

病態治療学 4

佐藤 智太郎、他

2 単位 1年次後期 オムニバス

＜授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）＞

〔テーマ〕

運動器系・内分泌系の主な疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

1. 運動器系・内分泌系の疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。
 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。
 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。
DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。
DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

＜授業の概要＞

「運動器系」「内分泌系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。運動器系、内分泌系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。
運動器系疾患では、関節リウマチ、変形性関節症、骨折、椎間板ヘルニア、骨肉腫等を学ぶ。
内分泌系では、糖尿病、パセドウ病、橋本病、甲状腺がん、下垂体線種、アジソン病等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。

＜学生に対する評価の方法＞

アクティブラーニングを活用して、質疑応答時における参画度（20%）、アクションペーパー（20%）、試験（60%）により総合的に評価する。

＜授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）＞

- 第01回 はじめに
＜第1部＞運動器系
第02回 主な症状と病態生理
第03回 検査
第04回 主な病態と治療1（外傷性疾患）
第05回 主な病態と治療2（骨・関節の炎症）
第06回 主な病態と治療3（骨腫瘍、脊椎疾患）
第07回 主な病態と治療4（筋・腱疾患等）
第08回 病態治療学4のまとめ（発展的課題紹介を含む）と試験
＜第2部＞内分泌系
第09回 主な症状と病態生理
第10回 検査
第11回 主な疾病と治療1（視床下部・下垂体疾患、甲状腺・副甲状腺疾患）
第12回 主な疾病と治療2（副腎疾患、多発性内分泌腫瘍）

- 第13回 主な疾病と治療3（代謝疾患）
第14回 主な疾病と治療4（体液・自律神経系疾患等）
第15回 病態治療学4のまとめ（発展的課題紹介を含む）と試験

＜使用教科書＞

『系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学（10）運動器』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学（6）内分泌・代謝』医学書院
『イメージできる病態生理学』メディカ出版

＜自己学習（予習・復習等）の内容・時間＞

テキストとノートを基に当日の復習（90分）、次回の病態治療学4の内容を事前に予習（90分）し、講義に臨むこと。
普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する放送などが多数あることから、身近に感ずることができる。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、心がけてほしい。

病態治療学 5

二村 昌樹、他

2 単位 1年次後期 オムニバス

＜授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）＞

〔テーマ〕

免疫・アレルギー・先天性疾患の原因や病理、形態と機能及び代謝変化の原理・検査・治療・予防について理解する。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

1. 免疫・アレルギー・先天性疾患を理解した上で、看護を実践するために必要な基本的知識が理解できる。
 2. 看護の対象の療養生活における安全と苦痛を考慮した行動ができる。
 3. 看護実践に必要なコミュニケーション・観察の意義と方法を理解できる。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を「看護の対象」とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。
DP2：看護と看護学を追究し普遍的な知の創造を探究・具現化できる。
DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

＜授業の概要＞

「免疫・アレルギー・先天性疾患」「造血器系」における特有な疾患の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践に必要な基礎知識を習得する。造血器系の構造・病態・症状・障害・診断・疾患・経過・検査・治療法予後等について学習する。造血器系疾患では、白血病、貧血、悪性リンパ腫等を学ぶ。免疫・アレルギー・先天性疾患では、免疫不全症、エイズ、アレルギー、自己免疫疾患、膠原病等を学ぶ。解剖生理学の基礎知識を土台に、内容の想起、復習、反復学習により理解を促す。適宜症例を紹介する。

＜学生に対する評価の方法＞

アクティブラーニングを活用し、質疑応答時における参画度（20%）、アクションペーパー（20%）、試験（60%）により総合的に評価する。

＜授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）＞

- 第01回 はじめに
＜第1部＞免疫・アレルギー・先天性疾患
第02回 主な症状と病態生理
第03回 検査
第04回 主な病態と治療1（膠原病）
第05回 主な病態と治療2（アレルギー疾患等）
第06回 主な病態と治療3（先天性疾患）

- 第 07 回 病態治療学 5 のまとめ (発展的課題紹介を含む) と試験
＜第 2 部＞造血器系
- 第 08 回 主な症状と病態生理
- 第 09 回 検査
- 第 10 回 主な治療 (輸血療法、造血器腫瘍の主な治療、薬物治療)
- 第 11 回 主な疾病と治療 1 (赤血球系の疾患)
- 第 12 回 主な疾病と治療 2 (白血球系の疾患)
- 第 13 回 主な疾病と治療 3 (リンパ・網内系の疾患)
- 第 14 回 主な疾病と治療 4 (異常タンパク血症、出血性疾患等)
- 第 15 回 病態治療学 5 のまとめ (発展的課題紹介を含む) と試験

＜使用教科書＞

『系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(11)アレルギー 膠原病 感染症』医学書院
『系統看護学講座・専門分野Ⅱ成人看護学(4)血液造血器』医学書院
『イメージできる病態生理学』メディカ出版

＜自己学習(予習・復習等)の内容・時間＞

テキストとノートを基に当日の復習(90分)、次回の病態治療学 5 の内容を事前に予習(90分)し、講義に臨むこと。
普段から、保健・医療・福祉に関する情報を得て、関心をもつようにしておくこと。最近では、健康や医療に関する放送などが多数あることから、身近に感ずることが出来る。なお、体系的な学びは、書物に限るので、図書館を積極的に利用することをお勧めする。また、ネット関連による検索は、記載者が判然としない場合は、鵜呑みにすることはいけない。必ず、内容に関して確かめるようにすること。学生同士で、予習や復習に関する内容をお互いに話し合う時間を、講義以外で設けることをお勧めする。チーム医療に参画する医療人としての協働の第一歩となる。また、科学的根拠に基づき、看護専門職としての合理的判断形成に役立つため、心がけてほしい。

看護学概論

平賀 元美、佐久間 清美

2 単位 1年次前期 複数

＜授業のテーマ及び到達目標(ディプロマポリシーとの関連)＞

[テーマ]

看護の役割・本質・機能・倫理・方法を学び、看護を学ぶ者としての基盤を整える。

[到達目標(ディプロマポリシー [DP] との関連)]

1. 看護の重要概念である「健康」「環境」「人間」「看護」を説明できる。
 2. 先人の看護理論家の言う看護の考え方が理解できる。
 3. 看護者に求められる活動について、社会情勢、歴史の変遷から考えることができる。
- DP1:さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。◎
- DP2:看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。◎
- DP3:寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。◎
- DP4:真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。○

＜授業の概要＞

看護学概論を学ぶ目的は、看護の対象・本質・役割・機能・方法など看護専門職に必要な知識と考え方を養い、これから学ぶ看護学への基盤を形成することにある。看護の「対象」は人間であり、世界の看護理論家の学説を学ぶことで、人間の見方の多様性を学び、看護学の視座を広げる。いにしえから看護は、人々の生活の営みと密着しつつ看護学に発展した歴史の変遷を学び、現代そして未来における看護の役割を考える。看護の場は、家庭、地域・職場に限らず、海外、災害の場へと拡大してきている実態も学ぶ。日常生活と人間の幸せとの関連性に気付き、看護への興味・関心を涵養する。

＜学生に対する評価の方法＞

アクティブラーニングを活用して、質疑応答時における参画度および

ミニツペーパー(30%)、グループワーク(20%)、記述試験(50%)により総合的に判断する。

＜授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)＞

- 第 01 回 ガイダンス(授業内容と目的の説明) 看護学を学び始めるにあたり
- 第 02 回 看護の変遷と歴史、看護職の法的根拠と位置づけ(講義)
- 第 03 回 現代医療と保健・医療・福祉システム(講義・演習)
- 第 04 回 看護の場と看護活動(講義・演習)
- 第 05 回 看護の対象の理解(社会)(講義・演習)
- 第 06 回 看護の対象の理解(人間)(講義・演習)
- 第 07 回 看護の対象の理解(人が生きていくこと)(講義・演習)
- 第 08 回 健康と文化(講義・演習)
- 第 09 回 看護理論(ナイチンゲール)健康の流動性 定義(講義・演習)
- 第 10 回 看護理論(ヘンダーソン)健康の創造:ヘルスプロモーション(講義・演習)
- 第 11 回 看護理論(ロイ、オレム)(講義)
- 第 12 回 看護援助の本質(グループワーク)
- 第 13 回 看護と倫理(講義・演習)
- 第 14 回 看護援助の本質 グループワーク発表
- 第 15 回 まとめ

＜使用教科書＞

『看護学概論』(医学書院)、『国民衛生の動向』(厚生労働統計協会)、毎回配布する資料
購入するテキストは1冊だけですが、さまざまなテキストがあります。いろいろな本を読み比べて、考えを深めていってください。参考書籍:『看護学概論』(メヂカルフレンド社)、『看護学概論』(ナーシング・グラフィカ)、『フローレンスナイチンゲール 看護覚え書』現代社、『ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの』(日本看護協会出版会)、『看護者の倫理綱領』(日本看護協会)

＜自己学習(予習・復習等)の内容・時間＞

シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する。授業内で演習が入っているものは、30分程度の時間でグループワークを行う。授業終了時はリアクションペーパーを作成し学びとして自覚したことや疑問等を提出をする。この内容に基づいて自己学習をすすめる。さらに、授業の最後に次回の課題を示すので、自己学習した結果として授業開始時にミニツペーパーとして提出する。第12回はグループワークを行い、その成果を第14回に発表する。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する(週90分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週90分)。
看護を学ぶ導入となるので、講義として話を聞くだけでなく、本を読むこと、読んで理解した内容をまとめ他者に伝えること、他者の意見を聞くこと、レポートにまとめることなどを体験します。全ての回の授業がそれぞれ意味ある内容になっていますので、休まず、かつ課題を行って参加してください。

基礎看護学技術論 1

金城 やす子、平賀 元美、野々川 陽子、大西 幸恵

2 単位 1年次前期 複数

＜授業のテーマ及び到達目標(ディプロマポリシーとの関連)＞

[テーマ]

看護実践に共通する基礎看護技術を身につける。

[到達目標(ディプロマポリシー [DP] との関連)]

1. 看護実践に必要なコミュニケーション、観察の意義と方法を理解できる。
 2. 対象者の療養生活における安全、安楽のニーズに基づいて、ニーズを充足するための方法が理解できる。
 3. 看護者として看護実践を記録、報告する意味を理解できる。
- DP1:さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。◎
- DP2:看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化がで

きる。 ○

DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。 ◎

DP4：真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。 △

<授業の概要>

共通看護技術の目的は、あらゆる看護技術の土台となる全ての対象に共通する基本的な基礎看護技術を修得することにある。①技術について(技術とは、技能とは)②コミュニケーション技術(言語的・非言語的コミュニケーション、「話す」「聴く」「伝える」基本技術)③観察・記録・報告の技術(意義、方法、内容)④安全の技術(ボディメカニクス、ガウンテクニックと手袋、安楽な体位)⑤病床の整備(環境の調整、ベッドメイキング)について学ぶ。技術論2以下の看護援助の判断基準となるバイタルサインの基本についても学ぶ。

<学生に対する評価の方法>

講義のテーマ毎の事前学習(10%)、学内演習での課題レポート(20%)、実技試験(20%)、記述試験(50%)

<授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)>

- 第01回 ガイダンス(授業内容と目的の説明)、技術とは(講義)
- 第02回 看護実践力と看護技術(講義、演習)
- 第03回 援助の必要性の確認とニーズ充足の意思決定(講義)
- <第1部>コミュニケーション
- 第04回 コミュニケーションとは(意義・目的・言語的・非言語的)、コミュニケーションのニーズ、コミュニケーションの要素と成立過程
- 第05回 関係構築のコミュニケーション(ロールプレイング、グループワーク)
- 第06回 コミュニケーションの技法:傾聴の技術・アサーティブネス(ロールプレイング・プロセスレコード)
- <第2部>安全と安楽
- 第07回 安全・安楽のニーズと充足(講義)
- 第08回 安全が脅かされる環境と予防(感染、転倒・転落)(講義)
- 第09回 安楽の意味と生活・療養支援(安楽な体位、ボディメカニクス)(講義)
- 第10回 スタンダードプリコーション:手指衛生・衛生的な手洗い・廃棄物の取り扱い感染予防技術:ガウンテクニック・無菌手袋装着(講義・学内実習)
- 第11回 同上(学内実習)
- 第12回 同上(学内実習)
- <第3部>観察と測定
- 第13回 観察すること
- 第14回 生命兆候の観察:体温・脈拍・呼吸・血圧・意識・身体計測(身長・体重・腹囲)(講義)
- 第15回 バイタルサイン・身体測定(講義)
- 第16回 同上(学内実習)
- 第17回 同上(学内実習)
- <第4部>病床整備と作成
- 第18回 看護場面における生活環境:病室内の環境と環境測定 快適な環境と整備(講義)
- 第19回 環境整備と病床の作り方:ベッドメイキング、リネンのはずし方(講義)
- 第20回 病床の作り方:ベッドメイキング(学内実習)
- 第21回 同上(学内実習)
- <第5部>看護記録
- 第22回 看護における記録、報告、相談の意味(講義)
- 第23回 看護記録の方法と報告の仕方(講義、グループワーク)
- 第24回 カンファレンスの方法(グループワーク)
- <第6部>まとめ
- 第25回 実技試験:衛生的手洗い、ベッドメイキング(ボディメカニクス含む)
- 第26回 同上
- 第27回 実技試験:臥床した患者のバイタルサインと記録、報告
- 第28回 同上
- 第29回 試験とまとめ
- 第30回 試験に対するフィードバック・解説

<使用教科書>

『基礎看護技術I』(医学書院)

『基礎看護技術II』(医学書院)

『写真でわかる基礎看護技術アドバンス』(インター・メディカ)

<自己学習(予習・復習等)の内容・時間>

シラバスに基づいて、講義内容を自己学習し授業に臨むこと。初回にテーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。学内演習は、講義の資料だけでなくビデオ映像を活用してイメージを持って臨むこと。授業以外の時間を活用して、技術の自主練習を行うこと。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する(週90分)、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる(週90分)。

1年次に行われる基礎看護学実習1に必要なコミュニケーションなどを中心とした、看護師に必要な基本的な技術を学ぶ授業になります。この時点で正しく確実な技術を身につけておくことが看護師としての基礎を作ることになりますので、休まず、事前学習や復習、実技の練習をして臨んでください。

基礎看護学技術論2

平賀 元美、神谷 智子、野々川 陽子、大西 幸恵

1 単位	1年次前期	複数
------	-------	----

<授業のテーマ及び到達目標(ディプロマポリシーとの関連)>

[テーマ]

生活援助の実践に必要な基礎看護技術を身につける。

[到達目標(ディプロマポリシー [DP] との関連)]

1. 人間に必要な活動と休息の意義と支援する方法が理解できる。
2. 対象者の清潔のニーズを理解し、療養生活に適した援助の方法を理解できる。
3. 安全な肢位の保持に基づく移動、移送、寝衣交換の方法が理解できる。

DP1:さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。 ◎

DP2:看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。 ○

DP3:寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。 ◎

DP4:真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。 △

<授業の概要>

生活援助技術の目的は、対象の基本的ニーズに即した、安全・安楽で、基本的な日常生活援助の方法と基礎知識を学ぶとともに、看護師としての基本的な態度を修得することにある。①活動と休息(体位変換、移動動作、車椅子・ストレッチャーの操作、睡眠の援助)②衣生活(和式寝衣・パジャマの交換)③身体清拭(全身清拭、口腔ケア、洗髪、陰部清拭)の援助技術を学ぶ。技術論1で学んだ対象とのコミュニケーションを駆使し、対象の反応を評価し、次の学習に活かすリフレクションを慣習化する。

<学生に対する評価の方法>

講義のテーマ毎の事前学習(10%)、学内演習での課題レポート(20%)、実技試験(20%)、記述試験(50%)

<授業計画(回数ごとの内容、授業技法等)>

<第1部>活動と休息の援助

- 第01回 ガイダンス(授業内容と目的の説明)、人間における睡眠と活動のニーズ(講義)
- 第02回 基本体位と体位変換(講義、演習・学内実習)
- 第03回 移動動作:車椅子・ストレッチャーによる移送(講義、演習・学内実習)

<第2部>衣生活への援助

- 第04回 衣生活の意義 衣服気候 病衣の交換(講義、演習・学内実習)
- 第05回 和式寝衣の交換・パジャマ交換(学内実習)

<第3部>身体清拭

- 第06回 清潔の意義 身体清潔に関する基礎知識(講義)
- 第07回 清潔援助の実践(講義)

- 第08回 全身・四肢の清潔（演示・学内実習）
- 第09回 同上（学内実習）
- 第10回 被髪頭部の清潔：結髪・洗髪（講義・演示・学内実習）
- 第11回 同上（学内演習）
- 第12回 臥床患者の全身清拭と寝衣交換（実技試験）
- 第13回 手浴・足浴 陰部洗浄（講義・学内実習）
- 第14回 口腔ケア・義歯の取り扱い・耳・眼・鼻部の手入れ（講義）
- 第15回 試験とまとめ フィードバック・解説

<使用教科書>

- 『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）
- 『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院）
- 『写真でわかる基礎看護技術アドバンス』（インター・メディカ）

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

シラバスに基づいて、講義内容を自己学習し授業に臨むこと。初回にテーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。学内演習は、講義の資料だけでなくビデオ映像を活用してイメージを持って臨むこと。授業以外の時間を活用して、技術の自主練習を行うこと。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。

今後の臨地実習において実践する頻度が高い日常生活援助を学ぶ科目であり、看護師として患者に直接触れる基本的な技術を学ぶ授業になります。この時点で正しく確実な技術を身につけておくことが看護師としての基礎を作ることになりますので、休まず、事前学習や復習、実技の練習をして臨んでください。

基礎看護学技術論 3

平賀 元美、穴井 美恵、野々川 陽子、大西 幸恵

1 単位	1年次後期	複数
------	-------	----

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

[テーマ]

生活援助の実践に必要な基礎看護技術を身につける

[到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）]

1. 対象の基本的ニーズを踏まえた食事の援助ができる。
 2. 対象の基本的ニーズを踏まえた排泄の援助ができる。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。◎
- DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。○
- DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。◎
- DP4：真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる△

<授業の概要>

生活援助技術の目的は、対象の基本的ニーズに即した、安全・安楽で、基本的な日常生活援助の方法と基礎知識を学ぶとともに、看護師としての基本的な態度を修得することにある。基本的ニーズとして生命維持に極めて重要な①栄養と食事（臥床患者の食事介助）②排泄（自然排泄への援助、便尿器の挿入、オムツ交換、導尿、浣腸）の援助技術を学ぶ。技術論1で学んだ対象とのコミュニケーションを駆使し、対象の反応を評価し、次の学習に活かすリフレクションを慣習化する。

<学生に対する評価の方法>

講義のテーマ毎の事前学習（10%）、学内演習での課題レポート（20%）、実技試験（30%）、終講試験（40%）

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

第01回 ガイダンス（授業内容と目的の説明）、人間における食事の意義と栄養と食事に関する基礎知識

<第1部>食事の援助

第02回 嚥下の生理的メカニズム 摂食・嚥下訓練（講義）
食事介助（講義）

第03回 食事介助（演示・学内実習）

第04回 非経口的栄養摂取：経管栄養（胃瘻・経鼻的）（講義・演示・学内実習）

<第2部>排泄の援助

第05回 排泄の意義 排泄に関する解剖・生理機能

第06回 トイレへの誘導 ベッドサイドでの排泄援助（ポータブルトイレ）オムツ交換（講義・演示）

第07回 オムツ交換（学内演習）

第08回 便器・尿器の使い方（講義・演示）

第09回 便器・尿器の使い方（学内演習）

第10回 自然排泄への援助 排泄障害時の援助：一時的導尿 浣腸 摘便（講義）

第11回 浣腸（演示・学内演習） 摘便（演示）

第12回 留置カテーテル管理（講義・学内実習）

第13回 便器・尿器の挿入（実技試験）

<第3部>まとめ

第14回 試験とまとめ

第15回 基礎看護技術論3のフィードバック 重点事項確認

<使用教科書>

- 『基礎看護技術Ⅰ』（医学書院）
- 『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院）
- 『写真でわかる基礎看護技術アドバンス』（インターメディカ）

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

シラバスあるいは授業で示される次回の授業内容を確認し、予習する。テーマ毎の事前学習課題を示すので、期日までに提出すること。学内演習は、講義の資料だけでなく、ビデオ映像を活用してイメージを持って取り組むこと。看護技術の実技については、授業以外の時間を活用して技術の習得にむけて自主練習を行うこと。解剖生理学で学習した内容を想起し、根拠に基づいた技術の習得に努力すること。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。

看護師として患者に直接触れる基本的な技術を学ぶ授業となります。今後の実習においても実践する頻度が高いため、原理原則に基づいた確実な技術を身につけておくことが看護師としての基礎を作ることになりますので事前学習や復習、技術練習をして臨んでください。

基礎看護学実習 1

穴井 美恵、金城 やす子、平賀 元美、神谷 智子
鈴木 岸子、野々川 陽子、大西 幸恵
小幡 さつき、鈴木 孝、小栗 直子、
佐久間 清美、大原 まゆみ、八田 早恵子

1 単位	1年次前期	複数
------	-------	----

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

[テーマ]

入院患者の病床での生活の実際を観察や言語的コミュニケーションをとおして理解できる。

[到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）]

1. 入院患者の病床での生活の実際（流れ、リズム）がわかる。
 2. 看護援助の実際や看護師のかかわりを見学し、看護の役割を理解する。
 3. 患者の反応を捉え、看護師としてのコミュニケーション技術を実践できる。
 4. 療養環境として、室内の物理的環境、患者を取り巻く人的環境を理解する。
 5. 看護者としての倫理的態度、情報管理の基本、報告・連絡・相談の重要性を学ぶ。
 6. 実習グループでは、他者の意見を傾聴し、自分の意見を述べ、協調性やチームワークのあり方を学ぶ。
 7. 今後の学習における自らの課題を見出す。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。◎
- DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。◎

DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。◎
 DP4：真の人間力をもって、グローバル社会に積極的に踏み出すことができる。△

<授業の概要>

看護学生としての初めての臨地実習であり、①入院患者との言語的コミュニケーションがとれる。②入院患者の病床での生活の実際がわかる、ことを目標とする。初対面の患者との挨拶に始まり、環境の調整を通し、患者と会話をする。話を聴く、自分の思いを伝えることで言葉のキャッチボールができるようにする。患者の1日の療養生活の実際や特徴を知ること看護技術の学習に活かす機会とする。実習グループのカンファレンスでの意見交換、他者の意見を聴く、自分の意見の伝えることで、チームワークや協調性も学ぶ。次の実習の課題を見出す。

〔実習施設〕独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター、東名古屋病院

<学生に対する評価の方法>

実習目標、実習内容に基づき評価表を作成する。形成評価を行い不十分な点を指導し、最終的に評価表に基づき総括評価する(100%)。評価は信頼性・妥当性、客観性に注意して行う。
 なお、学生の「自己評価」は評価の参考及び自己の振り返りに活用する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

〔グループの編成〕

学生 100 名に対して、1 グループ 5 名を 8 グループ、6 名を 10 グループ、計 18 グループ編成する。

〔実習計画〕

- 第 1 日目 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の選定と紹介
- 第 2 日目～4 日目 受け持ち患者とのコミュニケーション、情報収集、療法環境や生活援助
- 第 5 日目 受け持ち患者とのコミュニケーション・療法環境・生活援助の振り返り、病棟カンファレンス

〔事前指導計画〕

- 1. 事前オリエンテーションにおいて、実習目的・目標、実習内容、展開、方法、実習記録、留意事項等について説明する。
- 2. 事前オリエンテーション時に、事前課題（病棟や患者の特徴）を示し、自己学習を促す。
- 3. 担当教員と臨地実習指導者は、事前に学生のレディネスおよび実習目標を共有し、意思疎通の可能な受け持ち患者を選定する。
- 4. 実習開始前に臨地実習指導者は患者の同意を得、実習開始時に教員が書面にて確認する。

〔実習中の指導計画〕

- 1. 病院、病棟の概要についてオリエンテーションを受けて患者の療養環境を理解し、安全（情報管理含む）や災害時に関する注意点についての説明を受ける。
- 2. 患者が入院生活をどのように過ごしているのか、患者の許可のもと一緒に行動することで患者の生活の様子を観察する。
- 3. 患者とのコミュニケーションは、挨拶、自己紹介などから段階的に進めていく。困難な様子が見られたときは、指導者や教員が関わりモデルとしての役割を果たす。
- 4. 対象者の療養環境は、許可を得て音・採光・広さ等を測定し、物理的な環境の把握をする。
- 5. 日々のリフレクションにおいて、学生が課題を明確にできるようにする。
- 6. カンファレンスでは、学生の学びを共有するとともに、新たな気づきを促す。

〔事後の指導計画〕

- 1. クラス全体で、学習の成果をグループ毎にプレゼンテーションし、学びを共有する。
- 2. 患者に必要な療養環境について、グループ討議し、個別にレポートにまとめる。
- 3. 患者と関わる体験を通して、学びの再確認と動機付けを促す。

<使用教科書>

実習要項、実習記録、授業の参考資料

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

事前オリエンテーションに基づいて、自己学習を行う。既習の内容を振り返り、看護者としての自覚を持って実習に臨む。実習計画に示される次回の実習内容について確認する（週 90 分）、実習時に生じた疑問点等について調べ、まとめ、課題の解消を図る（週 90 分）。

看護に興味を持てるか、学習を継続したいかのターニングポイントになります。

ユニフォームを着て病院に行きますので、学生であっても看護者として病院にいるという自覚と緊張感を持って実習に臨んでください。服装、態度、言葉遣いなどあらゆる人が注目しています。私語は謹んで、慎重な行動をとりつつ、興味を持って積極的に学ぶことを期待しています。

成人看護学概論

浅野 妙子、大原 まゆみ

1 単位	1年次後期	複教
------	-------	----

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

人間のライフサイクルの概念を幅広くとらえ、ライフサイクルにおいて成長発達を促進、阻害する要因を理解する。人生における成人期の意味と成人各期の対象の発達特性、健康特性、健康問題について理解し、成人各期の健康維持・増進のための看護について主要理論・概念を理解しながら学ぶ。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

- 1. ライフサイクルの区分を理解する。
 - 2. ライフサイクルにおいて成長発達していく人間について理解を深める。
 - 3. 成人（青年期・壮年期・向老期）の生活と特徴を理解する。
 - 4. 成人（青年期・壮年期・向老期）の発達課題を学ぶ。
 - 5. 成人期の各期において起こりうる健康問題を理解する。
 - 6. 成人期の各期における健康問題に応じた看護実践について看護理論を用いながら考える。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。
 DP2：看護と看護学を追究し、普遍的な知の創造を探究・具現化ができる。
 DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。

<授業の概要>

成人看護学概論を学ぶ目的は、成人看護学全般について看護の概要、社会的な動向との関連、成人期の対象者が社会、地域、家庭において果たす役割と特徴、健康上の課題について概観的に学ぶことにある。成人看護の基本を理解し、意思決定支援、家族支援、倫理的判断についても学ぶ。

成人各期の特徴を心身の発達と生活の視点からとらえ、成人の生活を取り巻く社会や環境、成人各期における健康問題について成人看護に有用な概念を概観しながら理解する。

また、成人看護の基本を理解し、健康にかかわる政策や制度など、生活と健康をまもるシステムの概要を理解する。

<学生に対する評価の方法>

授業への参加および学習状況（20%）、レポート課題（20%）、筆記試験（60%）から総合的に判断する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第 01 回 ガイダンス 成人期とは何か 人間の成長発達とライフサイクル、成人期の特徴
- 第 02 回 現代社会と成人期の人の生活 社会情勢、国民生活の実態と変化 現代社会の生活には何が起きているのか 成人期には何が起きているのか 健康政策の動き

- 第03回 成人各期（青年期・壮年期・向老期）の特徴と変化
身体、性的、心理、社会的な特徴と変化
- 第04回 成人各期（青年期・壮年期・向老期）の特徴と健康問題
- 第05回 成人看護学に有用な主要理論と概念
成長発達理論、セルフケア理論、ストレス・コーピング・
適応理論、危機理論、ケアリング、痛みの軌跡、エンパワ
ーメント、自己効力理論
- 第06回 成人各期の健康問題
- 第07回 成人各期の健康問題
- 第08回 まとめ

<使用教科書>

安酸史子著『成人看護学概論』（メディカ出版）
『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）
そのほか適宜紹介する。

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

受講前後に講義の内容をよりよく理解するための課題を提案します。それらについて自主的に学習してください。また、既履修内容である、疾患・病態の理解、生活習慣病やヘルスプロモーション、厚生統計などの復習の課題も提案します。レポート課題（3回程度）のテーマは事前にお知らせします。シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われる話題について予習する（週90分）、授業時に生じた疑問点等について調べ、まとめる（週90分）。成人期の人が、社会、家庭、集団の中でどのように生きているか、どのような役割を担っているのか、そのような中で健康障害に陥るとはどのようなことであるか？ということをも具体的な事例を提示しながら、考え成人看護学を身近に理解していきます。また人として、生物学的な存在として成長・発達を遂げるために必要な知識と概念、看護について幅広く学びます。様々な闘病を経験した人たちの「闘病記」は必ず何冊か読んでおいてください。

老年看護学概論

穴井 美恵

1 単位	1年次後期	単独
------	-------	----

<授業のテーマ及び到達目標（ディプロマポリシーとの関連）>

〔テーマ〕

老年期にある対象の特徴と健康問題を捉え、看護の目的と役割を理解できる。

〔到達目標（ディプロマポリシー〔DP〕との関連）〕

1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。
 2. 高齢者を取り巻く社会情勢が理解できる。
 3. 高齢者の尊厳とアドボカシーについて理解し、看護者としての老年観を深めることができる。
 4. 老年期の発達課題を知り、老年看護の目的と役割を理解できる。
- DP1：さまざまな健康レベルの生活者を対象とし、対象に応じた実学としての看護を実践できる。◎
- DP2：看護と看護学を追及し、普遍的な知の創造を探究・具現化できる。△
- DP3：寛容性と感性をもって人間味あふれる看護が実践できる。◎

<授業の概要>

老年看護学概論の目的は、老年看護学全般についてその看護の概要、社会的な動向との関連、高齢者の社会、地域、家庭における役割の変化と位置づけを概観し、学ぶことにある。対象を心理・発達・社会的な観点からとらえ、幅広い老年観をもち、看護者として必要な老年期の対象へのまなざしを培う。また高齢社会と社会保障の概要を理解し、高齢者の疾病をめぐる特徴へと理解を深める。さらに、老年期の人々が健やかにその人らしく生きるためには、高齢者とその家族の生活を支え、Quality of Lifeを高めるための役割があることを理解する。

<学生に対する評価の方法>

- ①授業への参画態度（20%）
- ②課題レポート（20%）

③授業内容の理解度をチェックする試験（60%）
以上3点から総合的に評価する。

<授業計画（回数ごとの内容、授業技法等）>

- 第01回 老年看護学の概要
- 第02回 老年期の理解
- 第03回 加齢に伴う心身の変化
- 第04回 高齢社会と社会保障
- 第05回 高齢者を取り巻く社会情勢
- 第06回 高齢者の尊厳とアドボカシー
- 第07回 老年看護の目的と役割
- 第08回 試験とまとめ

<使用教科書>

北川公子ほか著『系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学』（医学書院）

<自己学習（予習・復習等）の内容・時間>

予習は、各講義に該当するテキストの内容をよく読み、疑問点や意見等を明確にして授業に臨んでください（週60分）。また復習は、各回で示される学習目標に沿って自分なりに学習内容やキーワード、授業で示された重要な点をまとめたノートを作成し、整理してください（週60分）。日頃から高齢者やその家族に関するニュースや新聞記事に関心をもち、情報を多く得るように心がけ、どのような課題があるかを考えてください。